

看護学研究科(博士前期課程)

科目区分	共通科目			聴講	可
授業科目名	看護学研究方法論 (研究過程と研究方法の理解)			科目履修	可
科目番号	MN0001	クラス番号	MN1		
授業形式	講義・演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・前期	単位	2単位	30時間	
科目責任者	行田智子	その他			
担当教員	行田智子、横山京子、石川良樹、中西陽子、山下暢子、狩野太郎、宮崎有紀子、高井ゆかり				
授業の概要	<p>本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に資する研究成果を産出することのできる人材育成に必要な科目として、看護学研究方法論（研究過程と研究方法の理解）を提供する。学生は、看護学研究方法論（研究過程と研究方法の理解）を通し、EBP及び科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE：Evidence-Based Nursing Education）の根拠となりうる研究成果を産出するために必要な研究過程と研究方法を理解する。具体的には、看護学研究に関わる学術用語、研究デザインの種類や特徴、データ収集・分析の方法など、研究成果の産出に必要な基礎知識・技術を修得する。また、既存の看護学研究を批判的に精読するために必要な知識の修得を通し、系統的な文献検討に基づく研究計画作成の重要性を理解する。</p>				
目的	看護学研究の意義と目的を理解し、研究遂行に必要な基礎知識を修得する。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究過程と研究方法を説明する。 2. 文献講読を通して学習した内容を学術用語を用いて発表する。 3. 精度の高い研究計画書を作成するための要件を列挙する。 4. 特別研究の課題との関連から研究遂行に必要な基礎知識を修得する必要性と意義を述べる。 				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習（学習課題）	担当
	1	研究過程における文献検討の意義と方法	講義	課題図書『看護研究入門 原著第7版 評価・統合・エビデンスの生成』の精読と要約	行田 横山
	2	看護研究の基礎（1） - 看護研究の世界を発見する、エビデンスに基づく看護実践を構築する上での研究の進化	発表・講義		行田 横山
	3	看護研究の基礎（2） - 量的研究への導入、質的研究への導入			行田 横山
	4	研究のプロセス（1） - 研究問題と研究目的 - 関連文献のレビュー			行田 横山
	5	研究のプロセス(2) - 枠組み - 目標、疑問、仮設そして研究変数			行田 横山
	6	研究のプロセス(3) - 研究における倫理 - 量的研究デザインを理解する			行田 横山 石川
	7	研究のプロセス(4) - 量的研究デザインを選択する - 質的研究の方法論			行田 中西
	8	研究のプロセス(5) - 成果研究 - 介入に基礎をおいた研究			行田 横山
	9	研究のプロセス(6) - 標本抽出（サンプリング）			行田 横山

		- 測定概念			
	10	研究のプロセス(7) - エビデンスに基づく実践の開発に用いられる測定方法 エビデンスに基づくヘルスケアへの統合(1) - 看護研究の批判的評価			行田 高井
	11	エビデンスに基づくヘルスケアへの統合(2) - エビデンス統合とエビデンスに基づく実践のための方略 - データの収集と管理			行田 山下
	12	データの分析、成果の決定、研究の伝達(1) - 統計解析概論 - 変数を記述するための統計	発表・講義		横山 狩野
	13	データの分析、成果の決定、研究の伝達(2) - 関係性を検討するための統計 - 予測をするための統計			行田 宮崎
	14	データの分析、成果の決定、研究の伝達(3) - 差を検定するための統計 - 研究成果を解釈する			行田 横山
	15	データの分析、成果の決定、研究の伝達(4) - 研究知見を広める 研究計画書の作成 - 研究計画書の作成			
	<p>終了後レポートの課題『看護学研究方法論を通して学んだこと』 自己の研究課題との関連から、研究遂行に必要な基礎知識を修得する必要性と意義を述べる。</p>				
自己学修時間	60 時間				
評価方法	発表と資料(50%), 討議(20%) 終了後レポート(30%)				
参考書 参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・バーンズ&グローブ(黒田裕子、中木高夫、逸見功監訳); 看護研究入門 原著第7版 評価・統合・エビデンスの生成, エルゼビア・ジャパン, 2015. ・Polit, D. F. Beck.(近藤潤子監訳); 看護研究—原理と方法—第2版, 医学書院, 2010. 				
オフィスアワー	月曜日 / 17 時 ~ 18 時 / 研究室	連絡先	t.nameda@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・学生個々の必要性に応じて質問に応じるなどの相談・支援を行う。 ・引き続き看護学研究方法論 (研究批評と研究成果の活用) を受講することにより、学習の高い統合レベルを目指すことが可能である。 				

科目区分	共通科目		聴講	可
授業科目名	看護学研究方法論（研究批評と研究成果の活用）		科目履修	可
科目番号	MN0002	クラス番号	MN1	
授業形式	講義・演習	必修選択区分	選択	
開講時期	1年次・後期	単位	2単位 30時間	
科目責任者	行田智子	その他		
担当教員	行田智子、横山京子、大澤真奈美、中西陽子、廣瀬規代美、齋藤基、山下暢子、狩野太郎、石川良樹、宮崎有紀子、高井ゆかり			
授業の概要	<p>本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に資する研究成果を産出することのできる人材育成に必要な科目として看護学研究方法論（研究批評と研究成果の活用）を提供する。看護学研究方法論（研究批評と研究成果の活用）を通し、学生は、看護学研究方法論（研究過程と研究方法の理解）で得た知識を前提とし、EBP及び科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE：Evidence-Based Nursing Education）の根拠となりうる研究成果を産出するために必要な研究批評と研究成果の活用に必要な知識・技術・態度を理解する。具体的には、質的研究・量的研究の方法、各々の特徴と意義を学習する。学習内容の発表・討論を通し、看護学研究の遂行に必要な知識・技術・態度の共通点・相違点を理解する。また、研究論文の批評を通し、研究成果の活用可能性について検討する。</p> <p>〔オムニバス方式／全15回〕 （行田・横山／5回、宮崎／1回、高井／1回） 研究批評と研究成果活用に必要能力について講義を展開する。また、課題図書『看護研究』の講読演習を通し、探究のレベルに応じた研究計画に必要な知識を提供する。さらに、研究批評の演習において、学生間の発表内容・討論を査定し、補完すべき知識を提供する。 （大澤真奈美／2回） 講義では質的研究の真实性確保に必要な基礎知識を提供する。また演習では、実際の文献を用いて真实性確保の観点から研究批評を行い、学生間で発表、討論を行う。 （中西陽子／1回） 講義を通し、内容分析の歴史と特徴、方法論の相違に伴う分析結果の相違、内容分析を適用した研究の遂行に必要な基礎知識を提供し、内容分析を用いた研究と研究成果活用の実際を紹介する。 （廣瀬規代美／1回） 講義を通し、グラウンデッド・セオリーの歴史と特徴、分析方法、グラウンデッド・セオリーを適用した研究の遂行に必要な基礎知識を提供する。また、グラウンデッド・セオリーを用いた研究と研究成果活用の実際を紹介する。 （齋藤 基／1回） 講義を通し、KJ法の歴史と特徴、分析方法、KJ法を適用した研究の遂行に必要な基礎知識を提供する。また、KJ法を用いた研究の実際と研究成果活用の具体例を紹介する。 （山下暢子／1回） 講義を通し、自然主義的パラダイムに立脚した方法論として、看護概念創出法を取り上げ、その特徴と研究の実際及び研究成果活用の具体例を紹介する。 （狩野太郎／3回） 講義と演習を通し、量的研究の種類と特徴、関係探索研究、関連検証研究の遂行に必要な基礎知識及び研究の実際を紹介する。また、講義を通し、測定用具開発研究の遂行に必要な基礎知識を提供し、尺度の開発過程と尺度活用の実際を紹介する。 （石川良樹／1回） 講義を通し、実験研究の特徴、無作為化、実験研究デザインの研究計画、実験研究の長所・短所、実験研究の遂行に必要な基礎知識及び研究の実際を紹介する。</p>			
目的	研究方法論の特徴を学習し、研究遂行に必要な知識・技術・態度を理解する。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既存の研究方法論の特徴を理解する。 2. 研究方法論の学習を通し、研究成果の産出・活用に必要な知識を修得する。 3. 研究批評を通し、研究成果の活用可能性を説明する。 			

授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習（学習課題）	担当		
	1	研究批評と研究成果活用に必要な能力	講義	課題図書 Diers, D 『看護研究』	行田 横山		
	2	探究のレベルと研究計画(1) 因子探索研究と関係探索研究の特徴	発表・講義		行田 横山 高井		
	3	探究のレベルと研究計画(2) 関連検証研究と因果仮説検証研究の特徴			行田 横山 宮崎		
	4	質的研究の基礎知識(1) 質的研究の真実性確保の方法	講義・演習	課題図書 Holloway 著 『ナースのための質的研究入門』の p.246～261	大澤		
	5	質的研究の基礎知識(2) 真実性確保の観点からの、文献のクリティーク	発表・討議				
	6	質的研究の実際(1) 内容分析の手法を用いた研究の実際	講義	各研究方法論の関連図書の精読	中西		
	7	質的研究の実際(2) グラウンデッド・セオリーを用いた研究の実際			廣瀬		
	8	質的研究の実際(3) KJ法を用いた研究の実際			齋藤		
	9	質的研究の実際(4) 看護概念創出法を用いた研究の実際			山下		
	10	量的研究の実際(1) 関係探索研究・関連検証研究の実際			狩野		
	11	量的研究の実際(2) 測定用具開発研究の実際			狩野		
	12	量的研究の実際(3) 統計処理ソフトを用いたデータ分析の実際			狩野		
	13	実験研究の実際			石川		
	14	研究批評(1) 国内文献を選択し、授業を通して得た知識を活用し、研究成果の活用も含めて批評する。			発表・討論	国内文献の精読 研究批評の内容の要約	行田 横山
15	研究批評(2) 国内文献を選択し、授業を通して得た知識を活用し、研究成果の活用も含めて批評する。						
終了後レポートの課題『看護学研究方法論』を通して学んだこと』 自己の研究課題との関連から研究批評と成果活用に必要な知識を修得する必要性と意義を述べる。							
自己学修時間	60 時間						
評価方法	発表と資料（40%）、討論（20%）、終了後レポート（40%）						
参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・ Diers, D：看護研究—ケアの場で行うための方法論—，日本看護協会出版会，1998． ・ Holloway, I., Wheeler, S 著、野口美和子監訳：ナースのための質的研究入門，第2版，医学書院，2011． ・ 舟島なをみ：質的研究への挑戦 第2版，医学書院，2007． ・ 舟島なをみ：看護教育学研究—発見・創造・証明の過程—，第2版，医学書院，2010． ・ バーンズ&グローブ（黒田裕子、中木高夫、逸見功監訳）；看護研究入門 原著第7版 評価・統合・エビデンスの生成，エルゼビア・ジャパン，2015． ・ Polit, D. F. Beck.(近藤潤子監訳)；看護研究—原理と方法—第2版，医学書院，2010． 						
オフィスアワー	月曜日 / 17時～18時 / 研究室	連絡先	t.nameda@gchs.ac.jp				
履修要件	特になし						
備考	看護学研究方法論（研究過程と研究方法の理解）に引き続き受講することにより、学習の高い統合レベルを目指すことが可能である。						

科目区分	共通科目		聴講	可	
授業科目名	専門職教育展開論（カリキュラム編成の基礎）		科目履修	可	
科目番号	MN0003	クラス番号	MN1		
授業形式	演習・講義	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・前期	単位	2単位 60時間		
科目責任者	山下暢子	その他			
担当教員	山下暢子 松田安弘 服部美香				
授業の概要	本研究科は、高等教育としての看護学教育の特徴と課題に精通し、研究成果の教材化・授業計画案作成・教授方略等の授業展開に必要な知識・技術、その基盤となる看護教育評価・看護学教育カリキュラム編成の知識・技術、教育倫理に関する知識・技術を駆使し、質の高い教育を展開することのできる人材育成に必要な科目として、専門職教育展開論（カリキュラム編成の基礎）を提供する。科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けては、科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE：Evidence-Based Nursing Education）が必要不可欠である。専門職教育展開論（カリキュラム編成の基礎）を通し、学生は、EBNE 展開の基礎となる知識を修得する。具体的には、看護教育評価・看護学教育カリキュラム編成の基礎理論を学習し、看護学教員や看護職者として教育的機能を果たすための基盤となる知識を獲得する。				
目的	科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE：Evidence-Based Nursing Education）に必要な教育過程展開や教育評価に必要な基礎理論、カリキュラム編成の基礎知識を理解する。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療専門職者が教育的機能を果たすために必要な教育学の基礎理論を理解する。 2. 保健医療専門職者が教育活動を展開するために必要な基本的知識を修得する。 3. 1.2.を前提とし、カリキュラム編成の過程を理解する。 				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習（学習課題）	担当
	1	保健医療専門職者が教育的機能を果たす意義と必要性	講義		山下
	2	教育過程展開の基礎理論(1) - 構造の重要性	発表・討議	課題図書 『教育の過程』の精読と要約	山下
	3	教育過程展開の基礎理論(2) - 学習のためのレディネス			
	4	教育過程展開の基礎理論(3) - 直観的思考と分析的思考			
	5	教育過程展開の基礎理論(4) - 学習のための動機付け，教具			
	6	教育過程展開の基礎理論(5) - 教育過程展開の基礎理論を活用した授業の実際	講義		
	7	教育評価の基礎知識(1) - 評価、測定、教育の過程 すぐれた測定用具の条件 教室内試験の計画 試験の構成と実施	発表・討議	課題図書 『看護学教育における講義・演習・実習の評価』の精読と要約	松田
	8	教育評価の基礎知識(2) - 客観式試験問題 論文式試験問題と記述式課題の評価			
	9	教育評価の基礎知識(3) - 問題解決、意思決定、批判的思考の評価 看護学実習評価 看護学実習評価の方法			
10	教育評価の基礎知識(4) - 試験の採点と分析				

		試験得点の解釈 成績評定 社会的、倫理的、法的問題			
	11	教育評価の基礎知識(5) - 教育評価の基礎知識を活用した授業展開	講義		
	12	カリキュラム編成の基礎理論(1) - 序章、カリキュラムの作成過程、方向づけ 段階 -	発表・討議	課題図書 『看護教育 カリキュラ ム その作 成過程』の 精読と要約	服部
	13	カリキュラム編成の基礎理論(2) - 形成段階・評価段階 -			
	14	カリキュラム編成の基礎理論(3) - カリキュラム過程のアセスメント、学士課 程に編入する学生としての看護師あるい は准看護師 -			
	15	カリキュラム編成の基礎理論(4) - カリキュラム編成の基礎理論を活用した 大学・大学院設置の実際	講義		
	<p>終了後レポートの課題『専門職教育展開論 を通して学んだこと』 保健医療専門職者として教育的機能を果たすという観点から、自己の課題を論述する。</p>				
自己学修時間	30 時間				
評価方法	発表（40%）、討議（20%）、終了後レポート（40%）				
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・ J.S.ブルーナー：教育の過程（岩波オンデマンドボックス）、岩波オンデマンドブック ス、2014 ・ 舟島なをみ監訳：看護学教育における講義・演習・実習の評価、医学書院、2009. ・ G.トレス他：看護教育カリキュラム その作成過程、医学書院、1998. 				
参考書 参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・ B.S.ブルーム他：教育評価法ハンドブック、第一法規出版、1979. ・ 杉森みど里、舟島なをみ：看護教育学 第6版、医学書院、2016. 				
オフィスアワー	火曜日 / 9 時 30 分から 11 時 00 分 / 研究室	連絡先	yamashita@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療放射線学研究科と共通科目 ・ 引き続き専門職教育展開論（カリキュラム編成の実際）を受講することにより、学習 の高い統合レベルを目指すことが可能である。 				

科目区分	共通科目		聴講	可	
授業科目名	専門職教育展開論（カリキュラム編成の実際）		科目履修	可	
科目番号	MN0004	クラス番号	MN 1		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・後期	単位	2単位 60時間		
科目責任者	松田安弘	その他			
担当教員	松田安弘 山下暢子 服部美香 金谷悦子				
授業の概要	<p>本研究科は、成人学習者としての看護職者、看護学教員の特性を理解し、スタッフ・ディベロップメント（SD）、ファカルティ・ディベロップメント（FD）を支援できる人材育成に必要な科目として専門職教育展開論（カリキュラム編成の実際）を提供する。</p> <p>受講者は、この科目を通し、保健医療系大学教育のカリキュラム編成に必要な知識・技術、院内教育プログラム立案に必要な知識・技術を獲得し、医療機関・教育機関において教育的役割を担う保健医療専門職者として必要な能力を修得する。具体的には、保健医療系大学教育のカリキュラムコース、スタッフ・ディベロップメント（SD）コース、ファカルティ・ディベロップメント（FD）コースにわかれ、保健医療系大学教育のカリキュラム編成、院内教育プログラムの立案過程を体験する。その際、各グループを担当する教員の助言を受けながら、グループワークを展開する。また、これらの展開を通し、獲得した知識・技術の大学教育・院内教育への活用可能性と教育的役割を担う自己の課題を検討する。</p>				
目的	目的：カリキュラム編成、あるいは、SD・FDに必要な知識・技術を習得し、医療機関・教育機関において教育的役割を担う保健医療専門職者として必要な能力を獲得する。				
目標	<p>目標：1.保健医療系大学教育のカリキュラムコース・SDコース・FDコースのいずれかを選択し、仮想機関のカリキュラム、あるいはSD・FDプログラムの立案と実施を通して教育プログラムの編成・運用の方法を具体的に説明する。</p> <p>2.保健医療系大学教育カリキュラム編成、院内教育プログラム立案と展開上の課題を述べる。</p> <p>3.保健医療専門職者として教育的機能を果たすという観点から、自己の課題を論述する。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容 (保健医療系大学教育のカリキュラムコース)	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	オリエンテーション グループの編成, 役割分担, 仮想大学設置の必要性について討議	グループ ワーク	<事前学習> 専門職教育展開論で学習した『看護教育カリキュラム その作成過程』の内容を復習する。	松田 山下 服部 金谷
	2	カリキュラム編成：方向づけ段階 - 教育理念、教育目的、卒業生の特性の明確化・成文化			
	3	カリキュラム編成：方向づけ段階 - 教育理念、教育目的、卒業生の特性の用語解作成, 理論的枠組みの作成			
	4	カリキュラム編成：方向づけ段階 - 内容の諸要素の抽出			
	5	カリキュラム編成：方向づけ段階 - カリキュラム軸の抽出			
	6	第1回 成果発表と討議	発表・討議	発表準備	
	7	カリキュラム編成：形成段階 - カリキュラムデザインの決定	グループ ワーク		
	8	カリキュラム編成：形成段階 - レベル目標の設定			
	9	カリキュラム編成：形成段階 - 科目目標の設定			
	10	第2回 成果発表と討議	発表・討議	発表準備	
	11	カリキュラム編成：機能段階 - 授業設計：テーマの決定	グループ ワーク	<事後学習> 授業終了後、課題レポートを提出する。	
	12	カリキュラム編成：機能段階 - 授業設計：目標の分析			
13	カリキュラム編成：機能段階 - 授業設計：授業案の作成				

	14	カリキュラム編成：機能段階 - 授業設計：教材作成と模擬授業			
	15	第3回 成果発表と討議	発表・討議	発表準備	
	回	授業内容 (SDコース・FDコース)	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	グループの編成, 役割分担, 仮想機関の背景について討議	グループワーク	<事前学習> 参考書に提示した『院内教育プログラム立案・実施・評価』を精読する。	松田 山下 服部 金谷
	2	仮想機関の現状把握と看護職者の現状把握 - 仮想機関の理念、仮想機関の概要、仮想機関におけるSD・FDの目的、育成したい看護職者・看護学教員の明確化・成文化 / 仮説機関に所属する看護職者の特徴の明確化・成文化			
	3	経過報告	発表・討議	発表準備	
	4	看護職者・看護学教員の教育ニーズ・学習ニーズのデータ分析(1)	グループワーク		
	5	看護職者・看護学教員の教育ニーズ・学習ニーズのデータ分析(2)			
	6	看護職者・看護学教員の教育ニーズ・学習ニーズのデータ分析(3)			
	7	看護職者・看護学教員の教育ニーズ・学習ニーズの診断(1)			
	8	看護職者・看護学教員の教育ニーズ・学習ニーズの診断(2)			
	9	経過報告	発表・討議	発表準備	
	10	SD・FDプログラムの編成(1)	グループワーク	<事後学習> 授業終了後、課題レポートを提出する。	
	11	SD・FDプログラムの編成(2)			
	12	授業設計(1)：目標の分析			
	13	授業設計(2)：授業案の作成			
	14	授業設計(3)：教材作成と模擬授業			
	15	成果発表と討議	発表・討議	発表準備	
		課題レポート テーマ：『専門職教育展開論を通して学んだこと』 内容：保健医療専門職者としての教育的機能を果たすという観点から自己の課題を論述する。			
自己学修時間	30 時間				
評価方法	グループワークの討議(20%), 成果発表(20%), 討議(20%), 終了後レポート(40%)				
参考書 参考文献等	・杉森みど里, 舟島なをみ: 看護教育学 第6版, 医学書院, 2016. ・G,トレス他: 看護教育カリキュラム その作成過程, 医学書院, 1998. ・舟島なをみ監修: 院内教育プログラムの立案・実施・評価, 第2版, 医学書院, 2015.				
オフィスアワー	木曜日 / 18時から 19時 / 研究室	連絡先	matuda@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備考	・診療放射線学研究科と共通科目 ・診療放射線学研究科生が受講する場合は、2学部統合カリキュラムを設定し学習する。 ・専門職教育展開論に引き続き受講することにより、学習の高い統合レベルを目指すことが可能である。				

科目区分	共通科目		聴講	可	
授業科目名	研究と倫理		科目履修	可	
科目番号	MN0005	クラス番号	MN 1		
授業形式	講義・演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1年次・前期・集中	単位	2単位 30時間		
科目責任者	高井ゆかり	その他			
担当教員	高井ゆかり 森川功 飯田苗恵				
授業の概要	<p>本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に資する研究成果を産出することのできる人材育成に必要な科目として、研究と倫理を提供する。研究と倫理を通し、学生は、EBP及び科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE：Evidence-Based Nursing Education）の根拠となりうる研究成果を産出する過程において必要となる倫理的態度を理解する。具体的には、人権擁護の重要性の理解を前提とし、研究過程に生じやすい倫理的問題を確認し、その回避に必要な知識・技術を習得する。また、研究過程において倫理的感受性を継続的に高める必要性を認識する。</p> <p>〔オムニバス方式/全15回〕 （森川功/6回）</p> <p>講義を通し、保健医療に関わる研究を計画・遂行する際の基礎となる医療倫理及び看護倫理の原則ならびに、バイオエシックス（生命倫理学）の基本原則を具体的に解説する。 （高井ゆかり/9回 飯田苗恵/7回）</p> <p>講義を通し、人権擁護が重視されるようになった背景や主な出来事を紹介するとともに、研究倫理の用語解説、人権擁護のための基本指針、保健医療における研究倫理に関わる基礎知識を提供する。また、演習を通し、学生が研究過程に生じやすい倫理的問題の抽出、問題回避に向けた提案ができるよう支援・助言する。成果発表・討議内容を査定し、補完すべき知識を提供する。</p>				
学科目的	人権擁護の重要性の理解を前提とし、研究過程に生じやすい倫理的問題を確認し、その回避に必要な知識・技術を習得する。これを通し、研究過程において倫理的感受性を継続的に高める必要性を認識する。				
学科目標	<p>1. 倫理学の基礎知識を用いて、研究過程に生じやすい倫理的問題を説明する。</p> <p>2. 研究批評を通して、研究対象者への倫理的配慮の実際と必要な手続きを述べる。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習（学習課題）	担当
	1	課題図書「悪魔の飽食」の批評	成果発表・討議	課題図書の精読・批評	森川
	2	倫理理論と種々の倫理原則 - 直観主義, 義務尊重主義, 結果尊重主義, 権利重視の倫理	講義	毎回、学習課題を提示	
	3	バイオエシックスの基本原則(1) - 侵害回避の原則, 恩恵の原則			
	4	バイオエシックスの基本原則(2) - 自律の原則			
	5	バイオエシックスの基本原則(3) - 公正の原則			
	6	生命の神聖さ（SOL）と生の質（QOL）			
	7	保健医療における研究倫理 - 人権擁護の指針と用語の解説			高井
	8	研究過程に生じやすい倫理的問題(1) 研究者・研究機関の責務	発表と討論	事前課題：倫理指標等の文献精読と要約	高井 飯田
	9	研究過程に生じやすい倫理的問題(2) 対象者の保護・安全管理			
	10	研究過程に生じやすい倫理的問題(3) 個人情報保護			

	11	研究過程に生じやすい倫理的問題(4) 不正行為の回避・利益相反			
	12	倫理審査委員会、クリティーク	講義	課題を提示	高井
	13	研究における倫理的問題と改善策の提示(1)	グループワーク	研究計画書の精読・批評	高井 飯田
	14	研究における倫理的問題と改善策の提示(2)			
	15	研究における倫理的問題と改善策の提示(3)	成果発表	発表準備	高井 飯田
	<p>終了後レポートの課題『研究と倫理を通して学んだこと』 保健医療専門職者として人権を擁護しながら研究を遂行するという観点から、自己の課題を論述する。</p>				
自己学修時間	60 時間				
評価方法	発表（20%）、ループワークの参加状況（20%）、討議（20%）、終了後レポート（40%）				
参考書 参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・森村誠一：悪魔の飽食 ・遠藤周作：海と毒薬 ・米国科学アカデミー編；池内了訳：科学者をめざす君たちへ - 科学者の責任ある行動とは ・宮坂道夫：医療倫理学の方法 原則・手順・ナラティブ（第2版） ・ドローレス・ドゥーリー，ジョン・マッカーシー；坂川雅子訳：看護倫理 				
オフィスアワー	火曜日 / 17 時 ~ 18 時 / 研究室	連絡先	yukaritakai@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者は課題図書『悪魔の飽食』を精読し、受講する。 ・4～5月頃、事前課題を提示する。 ・診療放射線学研究科と共通科目 ・夏季集中 				

科目区分	共通科目		聴講	可	
授業科目名	教育と倫理		科目履修	可	
科目番号	MN0006	クラス番号	MN 1		
授業形式	講義・演習		必修選択区分	選択	
開講時期	1年次・後期・集中	単位	2単位 30時間		
科目責任者	横山京子	その他			
担当教員	横山京子 金谷悦子				
授業の概要	<p>本研究科は、高等教育としての看護学教育の特徴と課題に精通し、研究成果の教材化・授業計画案作成・教授方略等の授業展開に必要な知識・技術、その基盤となる看護教育評価・看護学教育カリキュラム編成の知識・技術、教育倫理に関する知識・技術を駆使し、質の高い教育を展開することのできる人材育成に必要な科目として、教育と倫理を提供する。教育倫理とは、教育において対象者の人権を擁護するための道徳的原則である。教育と倫理の授業を通して学生は、科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE：Evidence-Based Nursing Education）の展開過程において必要となる倫理的態度を理解する。具体的には、人権擁護の重要性の理解を前提とし、教育過程に生じやすい倫理的問題を確認し、その回避に必要な知識、技術を習得する。また、教育過程において倫理的感受性を継続的に高める必要性を認識する。</p> <p>〔オムニバス方式 / 全 15 回〕 （横山京子/4 回 金谷悦子/2 回 合同 9 回）</p> <p>講義を通し、教育における人権擁護が重視されるようになった背景や主な出来事を紹介するとともに、教育倫理の現状、教育における人権擁護の基本指針など、教育倫理に関わる基礎知識を提供する。また、演習を通し、学生が教育過程に生じやすい倫理的問題の抽出、問題回避に向けた提案ができるよう支援・助言する。</p>				
目的	人権擁護の重要性の理解を前提とし、教育過程に生じやすい倫理的問題を確認し、その回避に必要な知識、技術を習得する。これを通し、教育過程において倫理的感受性を継続的に高める必要性を認識する。				
目標	1. 倫理学の基礎知識を用いて、教育過程に生じやすい倫理的問題を説明する。 2. 教育評価を通して、教育対象への倫理的配慮の実際と必要な手続きを述べる。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習（学習課題）	担当
	1	保健医療における人権と倫理 - 人権擁護の指針と用語の解説	講義	毎回、学習課題を提示	横山 金谷
	2	保健医療職の職業倫理			横山
	3	教育者の倫理的責任 - 全米教育協会（NEA）の倫理綱領			横山
	4	教育過程における倫理(1) - 教育内容・方法における倫理			横山 金谷
	5	教育過程における倫理(2) - 教育内容・方法における倫理			横山 金谷
	6	教育過程における倫理(3) - 試験と評価、教育活動と著作権			横山
	7	教育過程における倫理(4) - 教育倫理の現状と課題			横山
	8	教育過程に生じやすい倫理的問題(1)	グループワーク	テーマに応じた情報収集	横山 金谷
	9	教育過程に生じやすい倫理的問題(2)			

	10	教育過程に生じやすい倫理的問題(3)	成果発表	発表準備	横山 金谷
	11	個人情報保護と教育倫理	講義	毎回、学習 課題を提示	金谷
	12	文献精読のための基礎知識			金谷
	13	文献精読による倫理的問題の抽出	グループワ ーク	研究論文の 精読	横山 金谷
	14	文献精読による倫理的問題の抽出	グループワ ーク		
	15	文献の概要説明・批評と倫理的問題の回避に 向けた具体案の提示	成果発表	発表準備	
	<p>終了後レポートの課題『教育と倫理を通して学んだこと』 人権を擁護しながら教育を遂行するという観点から、自己の課題を論述する。</p>				
自己学修時間	60 時間				
評価方法	グループワークの参加状況(20%),成果発表(20%),討議(20%),終了後レポート(40%)				
参考書 参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・ NEA : Code of Ethics of the Education Profession ・ 日本看護系大学協議会・教育研究倫理検討委員会：看護学教育における倫理指針 ・ 舟島なをみ：看護学教育における授業展開, 医学書院, 2017. ・ Oermann, MH. (舟島なをみ監訳)：看護学教育における講義・演習・実習の評価, 「14.社会的、倫理的、法的問題」及び「付録 B」, 医学書院, 2001. ・ 木下一雄：教育倫理学, 東洋学出版社, 1953 . 				
オフィスア ワー	月曜日 / 17 時 ~ 18 時 / 研究室	連絡先	k.yokoyama@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備考	・ 春季集中				

科目区分	共通科目		聴講	可	
授業科目名	看護政策管理論		科目履修	可	
科目番号	MN0007	クラス番号	MN1		
授業形式	講義・演習		必修選択区分	選択	
開講時期	1年次・前期	単位	2単位 30時間		
科目責任者	巴山玉蓮	その他			
担当教員	巴山玉蓮				
授業の概要	<p>本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に資する研究成果を政策に反映することのできる人材育成に必要な科目として、看護政策管理論を提供する。看護政策管理論を通し、学生は、保健医療システムにおいて質の高い看護を提供するための看護政策管理的視点を裏付ける基礎知識や理論を習得する。また、看護政策管理に関する看護学研究の現状を確認し、EBPの実現および新たな研究成果を産出する意義を検討する。</p>				
目的	<p>看護実践、教育実践における問題を政策的・管理的側面から検討し、その解決に必要なエビデンスの探索、分析、統合、適用を検討する。この過程を通し、看護政策管理分野の研究の現状と活用可能なエビデンスの特徴および産出の必要性を確認する。</p>				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療システムの創造・発展・変革を担うための基盤となる知識を理解する。 2. 看護政策管理に関連する基本的知識を理解する。 3. 看護政策管理に関する看護学研究の現状を討論する。 4. EBPの実現および新たな研究成果を産出する意義について意見を述べる。 				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習（学習課題）	担当
	1	ガイダンス 医療制度の基盤形成期	発表・討議	課題図書『日本の医療制度と政策』の精読と要約	巴山
	2	医療制度の確立・拡張期			
	3	医療制度の改革期			
	4	医療制度・政策の国際比較			
	5	米国の医療制度改革			
	6	スウェーデンの医療制度改革と日本への示唆			
	7	医療保険制度の基本問題			
	8	各医療保険制度の構造と政策課題			
	9	医療提供制度の構造と改革の方向性			
	10	医療提供の改革手法			
	11	看護政策管理に関連する基礎知識と理論 ・組織とは ・管理とは	講義・討議	関連文献の検索・精読	
	12	看護政策管理に関連する基礎知識と理論 ・看護関連法規の歴史的変遷 ・看護関連法規の成立と政策過程			

	13	看護実践現場における、看護政策管理上の課題を明らかにする。		看護実践・教育実践上の問題を焦点化する	
	14	課題に関する文献検討の結果を発表し、討議する。	発表・討議	発表資料の作成	
	15	看護政策管理に関する EBP の実現および新たな研究成果を産出する意義について討議する。	全体討議	学習に対する自己評価	
<p>終了後レポートの課題『看護政策管理論を通して学んだこと』 研究成果を踏まえ、看護政策管理に関する課題の解決に向けた提言を論述する。</p>					
自己学修時間	60 時間				
評価方法	発表と資料（20％） 終了後レポート（80％）				
参考書 参考文献等	島崎謙治：日本の医療 制度と政策，東京大学出版会，2011 見藤隆子，石田昌宏，大串正樹他：看護職者のための政策過程，日本看護協会出版会，2007				
オフィスアワー	火曜日 / 17 時 ~ 18 時 /	連絡先	tomoyama@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備考					

科目区分	共通科目		聴講	可		
授業科目名	診療放射線学特論		科目履修	可		
科目番号	M02001	クラス番号	M1			
授業形式	演習	必修選択区分	選択			
開講時期	1・2年次 前期セメスター	単 位	2単位 30時間			
科目責任者	下瀬川正幸	そ の 他				
担当教員	下瀬川正幸・柏倉健一・寺下貴美					
授業の概要	<p>診療放射線学は、医学や理工学的要素を高度に応用することによって生まれた新しい学問領域であり、放射線画像検査学並びに放射線治療学を基本に人々の健康と福祉の向上に貢献することを目的とした総合的かつ学際的な科学である。近年、コンピュータ技術の臨床応用における技術革新がめざましく、新たな画像検査法や画像処理方法などの臨床応用が次々と開発され、スタンダードな X 線検査から多検出器を用いた CT や、機能画像を描出する MRI 検査など様々な機器が用いられている。本特論では、診療放射線学におけるその概要と特質について歴史的、内容分類的に概観する。</p> <p>また、放射線学と診療放射線技師の役割と機能との関係について検討する。さらに、診療放射線学教育の進め方、カリキュラム編成、教育評価について考察し、診療放射線学における高度専門職業人養成と高等教育の特質を踏まえた、診療放射線学部運営の実践について考察する。</p>					
目 的 標	<p>目的：診療放射線学の歴史と現状を概観し、放射線画像検査学、放射線治療学の概要を学ぶ。</p> <p>目標：1. 診療放射線学と診療放射線技師との関係を概観し、役割と機能を論述できる。 2. 診療放射線技師教育におけるカリキュラム編成、教育評価について論述できる。 3. 診療放射線学部及び研究科の運営について理解する。</p>					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学修(学修課題)	担当	
	1	診療放射線学の歴史 診療放射線学の歴史、放射線の医療における役割について	講義	事前学修 授業で扱う内容も含め、事前配布資料に記載されている課題について学修する。	下瀬川	
	2	放射線画像検査の変遷 診療放射線技師が扱う診療画像検査機器				
	3	放射線画像検査の変遷 診療放射線技師が行う検査方法				
	4	放射線治療の変遷 診療放射線技師が扱う放射線治療機器				
	5	放射線治療の変遷 診療放射線技師が行う治療方法				
	6	放射線管理 放射線障害と防護、その管理の概要				
	7	診療放射線技師養成学校の変遷 診療放射線技師の歴史的編成と学校教育	演習		事後学修 授業で扱った内容について復習する。また、授業の進行に応じて課題を提示するので必ず実施すること。	柏倉
	8	診療放射線技師養成の歴史と教育 診療放射線技師法指定規則による教育カリキュラム				
	9	診療放射線技師養成の歴史と教育 大学設置基準による大学教育カリキュラム				
	10	診療放射線技師養成の歴史と教育 統合カリキュラム編成法による診療放射線学の体系化				
	11	高度医療専門職教育 職業人としての高度医療専門職を教育する意義				
	12	診療放射線学教育 授業計画の立案と評価方法				
	13	診療放射線学教育 授業計画の立案と評価の実践				
	14	診療放射線学部・研究科の運営 大学教育における大学自治、組織運営、委員会活動				
15	診療放射線学とは 学問的体系化における診療放射線学の意義					
自己学修時間	60 時間					
評価方法	発表 50%、レポート 50%					
教科書	特になし					
参考書 参考文献等	山下一也：「医療放射線技術学概論講義 - 放射線医療を学ぶ道標」, 2007, PILAR PRESS					
オフィスアワー	下瀬川：木曜日 / 15:00 ~ 16:00 / 研究室 柏倉：木曜日 / 10:40 ~ 12:10 / 研究室 寺下：月曜日 / 15:00 ~ 17:00 / 研究室	連絡先	下瀬川：shimose@gchs.ac.jp 柏倉：kashikura@gchs.ac.jp 寺下：therapist@gchs.ac.jp			
履修要件	特になし					
備考	将来、診療放射線技師教育に携わることを考えている学生は履修することが望ましい。					

看護学研究科（博士前期課程）

科目区分	共通科目			聴講	可	
授業科目名	研究方法論と基礎統計学			科目履修	可	
科目番号	M02002	クラス番号	M1			
授業形式	演習	必修選択区分	選択			
開講時期	1・2年次 前期 Semester	単位	2単位 30時間			
科目責任者	柏倉健一	その他				
担当教員	柏倉健一					
授業の概要	診療放射線学における研究の方法論を学び、あわせて統計的なデータの扱い方を習得する。研究の意義、課題の設定、仮説の立案と解決方法の提示、命題の設定と結果の予測、実験・観測による命題の帰納的検証、結果に基づく知見の導出と学術的意義づけ、研究成果の発表と社会への還元など、研究における一連のプロセスを理解する。良い研究とは、新規性（独創性）、有効性（有用性）、信頼性が担保されている研究のことである。良い研究を行うために必要な手法（研究デザイン、文献調査、実験計画、機器操作、アンケート調査法、データ解析、図表作成、統計処理、誤差分析、推論、考察等）を身につける。また、研究倫理についても学修する。					
目的	目的： 研究を進める際に必要な方法論について学び、合わせてデータ解析に必要な統計解析の基礎について学修する。 目標： 1) 研究の意義、方法、評価基準について説明ができる。 2) 研究目的に応じた仮説の設定と適切な解決方法を提案・実施できる。 3) 統計的手法に基づいたデータの解釈ができる。					
授業の内容と方法	授業の内容			授業形態	事前・事後学修（学修課題）	担当
	1	研究の方法論 1 研究の定義、分類、評価基準、研究に必要な要素、研究倫理、成果の還元		演習	事前学修： 配付資料を精読し、疑問点を整理しておくこと。 事後学修： 復習を通して授業内容の理解に努めること。	柏倉
	2	研究の方法論 2 科学的方法、仮説演繹法、帰納と演繹、アナロジーとアブダクション				
	3	研究の方法論 3 実験法の種類と特徴、因果関係と相関関係、因果関係の判定				
	4	研究の方法論 4 実験デザイン、主効果と交互作用、再現性、主観の排除				
	5	データの解釈 尺度水準、分析値の評価（確度と精度）、系統誤差と偶然誤差、統計量				
	6	記述統計と推測統計 記述統計と推測統計、要約統計量、不偏推定量、ヒストグラム、箱ひげ図				
	7	確率分布 正規分布、二項分布、ポアソン分布、指数分布、t分布、カイ2乗分布、F分布				
	8	平均値の差の検定 1 母集団、サンプル、無作為抽出、区間推定、信頼区間、t値の計算				
	9	平均値の差の検定 2 有意水準、p値、第1種の過誤と第2種の過誤、カットオフ値と感度・特異度				
	10	カイ2乗検定 適合度の検定、独立性の検定				
	11	分散分析 分散分析の手順（1要因被験者間計画）多重比較				
	12	実験計画法 1要因被験者内計画、2要因被験者間計画、2要因被験者内計画、2要因混合計画				
	13	研究デザイン 科学的根拠、研究デザインの分類、エビデンスの分類、介入研究と観察研究				
	14	論文の書き方 論文の種類、IMRAD形式、科学論文の形式、図表の表現				
	15	学会発表の仕方 良いプレゼンテーションのコツ、スライド作成の注意点				
自己学修時間	60時間（週平均4時間）					
評価方法	演習時間中の質疑応答及び理解度（50%）、レポート（50%）により総合評価をする。					
教科書	特になし。必要に応じて資料を配付する。					
参考書 参考文献等	特になし					
オフィスアワー	柏倉：木曜日 / 2限 / 研究科長室	連絡先	柏倉：kashikura@gchs.ac.jp			
履修要件	特になし					
備考	特になし					

科目区分	共通科目			聴講	可	
授業科目名	放射線画像解剖学特論			科目履修	可	
科目番号	M02003	クラス番号	M1			
授業形式	演習	必修選択区分	選択			
開講時期	1・2年次 前期セメスター	単位	2単位 30時間			
科目責任者	柏倉健一	その他				
担当教員	柏倉健一・瀬川篤記					
授業の概要	診療放射線学に求められる自立的な検査の遂行に必要な画像解剖学について学修する。人体解剖学の理解を基礎とし、人体内部の正常な形態と構造が単純X線、造影検査、MRI、CT、核医学、超音波等の各モダリティ画像でいかに表現されるか、その特徴及び差異について演習形式で学ぶ。各画像上の臓器・組織の位置関係を3次元的に対比させることにより、各々の対応関係について理解を深める。また、各モダリティの撮像原理・特徴と得られた正常解剖画像とを比較し、撮像条件の違い、アーチファクト等により臓器・組織の描出態様がどのように変化するかについて学修する。本演習を通して、医用画像に表現される生体内の形態と構造の特徴について学ぶと共に、診断、治療等に必要な画像情報の種類・特性を理解し、自らの撮像技術、画像処理能力の向上につなげる。また、適切な臨床画像を診断医に提供できているか否か各自で判断できる能力を養う。					
目的 目 標	目的：診療放射線学に求められる画像解剖学について学修する。 目標：1，医用画像に表現される生体の構造を人体解剖と対比し3次元的に理解する。 2，各医用画像の画像特性の違いについて理解する。 3，診断、治療目的に応じた適切な臨床画像について考察できるようにする。					
授業の内容と方法	授業の内容			授業形態	事前・事後学修（学修課題）	担当
	1	人体解剖の基礎：人体解剖学の概説：演習の目的、進め方について説明する。		演習	事前学修：配付資料を精読し、疑問点を整理しておくこと。 事後学修：復習を通して授業内容の理解に努めること。	柏倉 瀬川
	2	脳神経系解剖：脳神経系の人体解剖構造の名称、位置関係等について学修する。				
	3	骨軟部系・循環器系解剖：骨軟部系・循環器系の人体解剖構造の名称、位置関係等について学修する。				
	4	胸・腹部解剖：胸部・腹部の人体解剖構造の名称、位置関係等について学修する。				
	5	脳神経系画像解剖1：脳神経系のCT、MRI画像の特徴について解剖構造と比較し学修する。				
	6	脳神経系画像解剖2：脳神経系のCT、MRI以外の解剖画像の特徴について解剖構造と比較し学修する。				
	7	骨軟部系画像解剖1：骨軟部系の単純X線画像の特徴について解剖構造と比較し学修する。				
	8	骨軟部系画像解剖2：骨軟部系のX線画像以外の画像の特徴について解剖構造と比較し学修する。				
	9	循環器系画像解剖1：循環器系の血管造影画像、核医学画像の特徴について学修する。				
	10	循環器系画像解剖2：循環器系のその他の解剖画像の特徴について解剖構造と比較し学修する。				
	11	胸部画像解剖1：胸部の単純X線画像の特徴について解剖構造と比較し学修する。				
	12	胸部画像解剖2：胸部のCT、MRI画像の特徴について解剖構造と比較し学修する。				
	13	腹部画像解剖1：腹部の単純X線画像、超音波画像の特徴について解剖構造と比較し学修する。				
	14	腹部画像解剖2：腹部のCT、MRI画像の特徴について解剖構造と比較し学修する。				
15	まとめ、総合討論：本演習を通して習得した知識について、討論を通じて整理・まとめをする。					
自己学修時間	60時間（週平均4時間）					
評価方法	演習時間中の質疑応答及び理解度（50%）、レポート（50%）により総合評価をする。					
教科書	特になし。必要に応じて資料を配付する。					
参考書 参考文献等	特になし					
オフィスアワー	柏倉：木曜日 / 2限 / 研究科長室 瀬川：月曜日 / 10:30～12:30 / 研究室	連絡先	柏倉：kashikura@gchs.ac.jp 瀬川：atsuki@gchs.ac.jp			
履修要件	特になし					
備考	特になし					

科目区分	共通科目			聴講	不可	
授業科目名	保健医療特論			科目履修	不可	
科目番号	MO2007	クラス番号	M1			
授業形式	演習	必修選択区分	選択			
開講時期	1・2年次 後期セメスター	単位	2単位 30時間			
科目責任者	瀬川篤記	その他				
担当教員	瀬川篤記					
授業の概要	<p>本授業科目では、看護学研究において重要な医療情報および医療倫理について、演習形式で学ぶ。（オムニバス方式/全15回）（瀬川 篤記/15回）</p> <p>保健医療分野における情報流通のよりよい形について考察・討論する。既に多数の医療施設で導入済の病院情報システムや電子カルテは当初、診療記録や医事会計情報といった膨大な病院内情報の、正確かつ効率的な運用・管理のために考案された仕組みであったが、普及が進んだ昨今では、経営分析など、より高度な活用法が模索・開発されつつある。一方で現場からは、情報の入力や転送に要する手間が従来よりも増大した、急を要する内容変更への柔軟な対応が損なわれたなど、旧来のアナログな情報流通よりむしろ劣る側面も、時折指摘されるところである。特に、安全は何よりも重視されねばならないが、電子カルテに特有と考えられる医療事故やインシデントも、残念ながら報告されている。本授業科目では、保健医療現場における情報流通について多角的に検証・分析し、保健医療情報を安全かつ効率的に運用・管理できる医療従事者をめざして学習・研究する。</p>					
目的 目標	<p>目的：看護学研究における医療倫理、研究倫理の重要性と保健医療情報の特性を理解する。</p> <p>目標：1) 保健医療における多様な場面において、必要な倫理的側面を理解・実行できる。 2) 臨床現場のリスクマネジメント計画を策定できる。 3) 保健医療における情報流通システムを安全・有効に活用できる。</p>					
授業の内容と方法	授業の内容			授業形態	事前・事後学修 (学修課題)	担当
	1	職業人と倫理		演習	適宜、授業中に提示します。	瀬川
	2	倫理からみた保健医療専門職の特殊性				
	3	保健医療における倫理原則と個別施設の倫理規定				
	4	看護学研究における個人情報の取扱				
	5	研究の成果と利益				
	6	保健医療におけるリスク				
	7	リスクマネジメント計画				
	8	情報科学総論				
	9	保健医療情報システム				
	10	情報セキュリティ総論				
	11	保健医療における情報セキュリティ				
	12	医療機器管理の実際				
	13	保健医療情報の利活用				
	14	保健医療情報連携				
15	まとめ 学生による研究発表と討論					
自己学修時間	60時間（演習でやったことを忘れないうちに、当日中の事後学修を心がけてください）					
評価方法	レポート 100%					
教科書	特になし。授業中にハンドアウトを配布します。					
参考書 参考文献等	特になし					
オフィスアワー	瀬川：月曜日 / 10:30～12:30 / 研究室	連絡先	瀬川：atsuki@gchs.ac.jp			
履修要件	特になし					
備考	特になし					

看護学研究科（博士前期課程）

科目区分	共通科目		聴講	可	
授業科目名	保健医療安全学特論		科目履修	可	
科目番号	M02008	クラス番号	M1		
授業形式	演習	必修選択区分	選択		
開講時期	1・2年次 後期セメスター		単 位	2単位 30時間	
科目責任者	上原真澄	そ の 他			
担当教員	上原真澄				
授業の概要	<p>医療従事者による機器操作や患者ケアにおける過失を、医療従事者の単なる操作ミス、あるいはケアレスミスとしてとらえるのではなく、過失を起こす多くの要因が潜む職場環境におかれた人の心理や状況を総合的に把握することによって本質的な理解及び事故防止対策が生まれる。医療安全には、心理学や人間工学などの分野を含めた学際的な対策が望まれる。そのためには、医療従事者の過失を人対人、人対インタ-フェイスの問題として考えることが重要となる。本科目では、医療現場の現状や特殊性を理解し、医療安全に必要な組織づくりや医療事故防止対策の実際などについて学ぶ。</p> <p>また、コメディカル専門職の高学歴化（4年制大学及び大学院修士課程、博士課程修了者）に伴い病医院の経営管理に参入するケースが、年々増加する傾向にある。このような状況を踏まえ、コメディカル・スタッフが、今後の病医院管理にどのように関与し、マネジメントしていくかを考察することが重要になる。このためには、病院経営概論としての欧米諸国医療の現状、我が国の医療政策及び診療報酬などの現状、各部門の人事管理等の課題、今後の検査装置等について把握する必要がある。さらに、患者中心医療の質の向上において高度な専門職種技術を提供するためにも、医療を支えるための一領域である医療経済学や臨床経済学的手法などを中心に演習し、各専門職の臨床医用技術等の関連性について理解を深める。</p>				
目的 目 標	<p>目的：医療安全への組織づくりや医療事故防止対策実際、患者中心とした病医院経営と人事管理などを理解する。 目標：欧米諸国医療の現状を把握し、我が国における医療との比較分析を行うことで、我が国の医療安全の現状について理解する。さらに、医療安全や診療報酬などを把握し、医療経済学や臨床経済学を基にした病医院経営（各専門職の関連性など）について理解する。</p>				
授業の内容 と方法	回	授業内容	授業 形態	事前・事後 学修(学修 課題)	担当
	1	医療倫理とは ：バイオエシックス（生命倫理学）など医療従事者の倫理について演習する。	演習	事前学修 授業で行 う内容に ついて文 献を当 たり予備 知識を身 に付けて おく。 事後学修 予備知識 と演習で 学修した 内容との 相違点に ついて整 理し、理 解を深 める。	上原
	2	医療法と関連法令 ：医療法と関連する法令などの経年変化について演習する。			
	3	医療法とインフォ-ムドコンセントについて ：インフォ-ムドコンセントの概要、患者の心理に基づく接遇、医療過誤について演習する。			
	4	医療事故と安全管理への取り組み 1-1 ：Harvard Medical Practice Study、安全管理組織とリスクマネジメントについて演習する。 事例収集と整理			
	5	医療事故と安全管理への取り組み 1-2 ：Harvard Medical Practice Study、安全管理組織とリスクマネジメントについて演習する。 事例検討と討論			
	6	医療事故と安全管理への取り組み 2-1 ：画像診断部門および放射線治療部門それぞれにおける事故防止対策について演習する。 事例収集と整理			
	7	医療事故と安全管理への取り組み 2-2 ：画像診断部門および放射線治療部門それぞれにおける事故防止対策について演習する。 事例検討と討論			
	8	医療事故と安全管理への取り組み 3-1 ：事故のリスク、インシデント・アクシデント事例、訴訟事例について演習する。 事例収集と整理			
	9	医療事故と安全管理への取り組み 3-2 ：事故のリスク、インシデント・アクシデント事例、訴訟事例について演習する。 事例検討と討論			
	10	医療保障制度について ：社会保険、介護保険など医療保障制度について演習する。			
	11	諸外国の医療制度について ：諸外国の経験に学ぶ医療制度改革について演習する。			
	12	病院経営概論 1 : 医療経済学、医療経営、健康関連 QOL について演習する。			
	13	病院経営概論 2 ：Diagnosis Procedure Combination、Private Finance Initiative などについて演習する。			
	14	医療経済評価 : Cost-Effectiveness、Cost-Benefit Analysis などについて演習する。			
	15	医療行為の効果の評価 ：Cost-Effectiveness における効果推定のためのモデルについて演習する。			
自己学修時間	60 時間（事前学修では文献等で予備知識を身に付ける。事後学修では演習を通して学んだ事項と予備知識との相違点に着目し整理することで理解を深める。）				
評価方法	演習課題 100%				
教科書	特になし				
参考書 参考文献等	<p>1 医療経営教育協議会編：医療マネジメント-医療の質向上のための医療経営学-. 日経メディカル開発 2 中島和江他：ヘルスケアリスクマネジメント-医療事故防止から診療記録開示まで-. 医学書院 3 西村周三他：医療経済学の基礎理論と論点. 勁草書房、久繁哲徳他：臨床経済学-医療・保健の経済的評価とその方法-. 篠原出版</p>				
オフィスアワー	上原:水曜日 12:00~13:00 研究室	連絡先	上原 uehara@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備考	特になし				

科目区分	専門科目	聴講	否
授業科目名	実践看護学構築論（看護理論と看護実践）	科目履修	可
科目番号	MN0008	クラス番号	MN1
授業形式	演習・講義	必修選択区分	選択必修
開講時期	1年次・前期	単位	2単位 60時間
科目責任者	中西陽子	その他	
担当教員	行田智子 横山京子 中西陽子 狩野太郎 齋藤 基 巴山玉蓮 石川良樹 宮崎有紀子 高井ゆかり 大澤真奈美 飯田苗恵 廣瀬規代美		
授業の概要	<p>本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に意義を見出すことのできる人材育成に必要な科目として、実践看護学構築論（看護理論と看護実践）を提供する。学生は、実践看護学構築論（看護理論と看護実践）を通し、EBPの根拠として既に活用されている看護学及び関連学問領域の理論・主要概念への理解を深める。また、これらの理論や概念を用い、看護実践上の問題を分析することを通し、既存の理論や概念の活用可能性と限界を理解する。このことを通し、EBPの実現に向け、看護学を充実・発展・革新させていくことの必要性を理解する。学生は、自己の興味・関心に基づき担当教員を選択し、グループを形成する。授業は、形成されたグループ毎に展開する。教員は、看護技術学、生涯発達看護学（母胎期、乳幼児期・学童期、思春期、成人期、老年期）地域健康看護学、看護政策管理学という各々が専門とする内容を織り込みながら担当グループの授業を展開する。</p> <p>（行田智子） 講義を通して、母胎期にある人々を対象とした看護実践に活用可能な主要概念（ヘルスプロモーション、ウエルネス）及び看護理論（オレム）関連領域の理論（ゲゼルの発達理論）を紹介する。また、それらの主要概念や理論を用いた研究論文の精読・批評を支援・助言する。</p> <p>（横山京子） 講義を通して、乳幼児期・学童期にある人々を対象とした看護実践に活用可能な主要概念（国際生活機能分類）及び看護理論（ヘンダーソン、キング）関連領域の理論（エリクソン、ピアジェ、ボウルビイ、ハヴィガーストの発達理論など）を紹介する。また、それらの主要概念や理論を用いた研究論文の精読・批評を支援・助言する。</p> <p>（中西陽子） 講義を通して、成人期にある人々を対象とした看護実践に活用可能な主要概念（ライフスタイルなど）及び看護理論（オレム、ロイなど）関連領域の理論（死の受容、ストレス理論、エリクソン・レビンソンの発達理論など）を紹介する。また、それらの主要概念や理論を用いた研究論文の精読・批評を支援・助言する。</p> <p>（狩野太郎） 講義を通して、老年期にある人々を対象とした看護実践に活用可能な主要概念（ICF、エイジイズム、アドボカシー、ソーシャルサポートなど）及び看護理論（ナイチンゲール、オレム、ベナーなど）関連領域の理論（エリクソン、ハヴィガーストの発達理論、ストレンクスモデルなど）を紹介する。また、それらの主要概念や理論を用いた研究論文の精読・批評を支援・助言する。</p> <p>（齋藤 基） 講義を通して、地域に暮らす人々を対象とした看護実践に活用可能な主要概念（ヘルスプロモーション、ソーシャルサポート）及び看護理論（コミュニティ・アズ・パートナーモデル）関連領域の理論を紹介する。また、それらの主要概念や理論を用いた研究論文の精読・批評を支援・助言する。</p> <p>（巴山玉蓮） 講義を通して、看護を提供するあらゆる場にある人々や看護職を対象とした看護実践ならびに看護政策管理に活用可能な主要概念（ポリシー、ストラテジー、マネージメント、イノベーションなど）及び看護理論（ナイチンゲール、オレム、ベナー）関連領域の理論（リーダーシップ論、人的資源論、近代組織論など）を紹介する。また、それらの主要概念や理論を用いた研究論文の精読・批評を支援・助言する。</p> <p>（石川良樹） 講義を通して、運動機能の維持・回復に関連する看護実践に活用可能な主要概念（筋発生、筋再生、神経発生、シナプス形成など）及び検証のための実験手法・理論（遺伝子導入、遺伝子ノックアウト、電子顕微鏡、蛍光顕微鏡、タンパク質1分子解析など）を紹介する。また、それらに関連する研究論文の精読・批評を支援・助言する。</p> <p>（宮崎有紀子） 講義を通して、地域で生活する人々を対象とした看護実践に活用可能な主要概念（保健行動、行動変容など）及び看護理論（コミュニティ・アズ・パートナーモデルなど）関連領域の理論（ヘルスブリーフモデル、ステージ理論など）を紹介する。また、それらの主要概念や理論を用いた研究論文の精読・批評を支援・助言する。</p> <p>（高井ゆかり） 講義を通して、老年期にある人々を対象とした看護実践に活用可能な主要概念（サクセスフルエイジング、国際生活機能分類など）及び看護理論（ベナー、パースイなど）関連領域の理論（Developmental Tasks、Fear-avoidance Model、家族システム理論、死の受容など）を紹介する。また、それらの主要概念や理論を用いた研究論文の精読・批評を支援・助言する。</p>		

	<p>（大澤真奈美） 講義を通して、地域に暮らす人々を対象とした看護実践に活用可能な主要概念（ヘルスプロモーション、ソーシャルキャピタル、ポピュレーションアプローチ・ハイリスクアプローチ等）及び看護理論（トランスセオリアルモデル、コンフォート理論等）及び関連領域の理論を紹介する。また、それらの主要概念や理論を用いた研究論文の精読・批評を支援・助言する。</p> <p>（飯田苗恵） 講義を通して、地域で療養する人々を対象とした看護実践に活用可能な主要概念（意思決定、チームマネジメント、エンド・オブ・ライフケアなど）及び看護理論（ペプロウ、オレムなど）、関連領域の理論（規範的意思決定論、記述意思決定論、家族発達理論、多職種チームモデルなど）を紹介する。また、それらの主要概念や理論を用いた研究論文の精読・批評を支援・助言する。</p> <p>（廣瀬規代美） 講義を通して、成人期にある人々を対象とした看護実践に活用可能な主要概念（ライフスタイルなど）及び看護理論（オレム、ロイなど）、関連領域の理論（ストレス・コーピング理論、危機理論、死の受容、レビンソンの発達理論など）を紹介する。また、それらの主要概念や理論を用いた研究論文の精読・批評を支援・助言する。</p>				
目的	科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の前提となる諸理論と概念を学習し、看護実践の質向上に向けて新たに必要となる理論・概念を考察する。				
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践上の課題解決に活用可能な理論・概念の特徴を説明する。 2. 既存の理論・概念を用いて、看護実践上の問題を明らかにする。 3. 1.2.を通し、実践上の課題解決過程に理論を適用する意義と課題を述べる。 				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習（学習課題）	担当
	1	看護実践の基盤となる看護理論の特徴と機能(1)	講義	関心のある理論の学習	グループのテーマにより担当教員を決定する
	2	看護実践の基盤となる看護理論の特徴と機能(2)	発表・講義	理論選択・精読	
	3	看護実践の基盤となる看護理論の特徴と機能(3)			
	4	看護理論を活用した看護学研究(1)	成果発表・討議	研究論文の選択・精読	
	5	看護理論を活用した看護学研究(2)			
	6	看護実践の基盤となる関連学問領域の理論の特徴と機能(1)	発表・講義	理論選択・精読	
	7	看護実践の基盤となる関連学問領域の理論の特徴と機能(2)			
	8	看護実践の基盤となる関連学問領域の理論の特徴と機能(3)			
	9	関連学問領域の理論を活用した看護学研究(1)	成果発表・討議	研究論文の選択・精読・発表	
	10	関連学問領域の理論を活用した看護学研究(2)			
	11	理論に基づく看護実践上の問題解決(1) ：問題の明確化	経過報告・討議	看護実践において現実に直面した課題を看護理論に基づき抽象化し解釈する	
	12	理論に基づく看護実践上の問題解決(2) ：適用する理論の選択			
	13	理論に基づく看護実践上の問題解決(3) ：プロセスレコードの作成			
	14	理論に基づく看護実践上の問題解決(4) ：分析結果			
	15	理論に基づく看護実践上の問題解決(5) ：最終報告	最終報告・討議	問題解決の方法の明確化と評価	
<p>終了後レポートの課題『実践看護学構築論（看護理論と看護実践）を通して学んだこと』 実践上の課題解決過程に看護理論及び関連学問領域の理論を適用する意義と適用に向けた課題を述べる。</p>					
自己学修時間	30 時間				
評価方法	経過報告・成果発表（40%）、討議（20%）、終了後レポート（40%）				
参考書 参考文献等					
オフィスアワー	月曜日 / 17 時 ~ 18 時 / 研究室	連絡先	nakanisi@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備考	実践看護学を主専攻とする学生は必ず履修する。				

科目区分	専門科目		聴講	否
授業科目名	実践看護学構築論（看護学の革新と看護研究）		科目履修	可
科目番号	MN0009	クラス番号	MN1	
授業形式	演習	必修選択区分	選択必修	
開講時期	1年次・後期	単位	2単位 60時間	
科目責任者	中西陽子	その他		
担当教員	行田智子 横山京子 中西陽子 狩野太郎 齋藤基 巴山玉蓮 石川良樹 宮崎有紀子 高井ゆかり 廣瀬規代美 大澤真奈美 飯田苗恵			
授業の概要	本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に意義を見出すことのできる人材育成に必要な科目として、実践看護学構築論（看護学の革新と看護研究）を提供する。実践看護学構築論（看護学の革新と看護研究）を通し、学生は、実践看護学構築論（看護理論と看護実践）で得た知識を前提とし、EBPの実現に向け、あらたに産出する必要のある理論・知識・技術を模索する。このことを通し、EBPの実現に向け、看護学を充実・発展・革新させていくことの必要性を理解する。具体的には、特別研究のテーマとの関連から EBP に活用可能な海外の看護学研究を探索・精読し、研究批評を通して今後あらたに必要となる看護学研究を焦点化する。実践看護学構築論において、教員各々は、特別研究指導を担当する学生を対象に授業を提供する。			
目的	特別研究のテーマとの関連から海外の看護学研究を探索・精読し、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向け、今後あらたに必要となる看護学研究を焦点化する。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 海外の看護学研究を選択し、批判的に精読する。 2. 選択した看護学研究のデザイン、概念枠組み及び研究方法論などを検討し、特別研究を遂行するために必要な知識を修得する。 3. 1.2.を通して、特別研究の課題を焦点化する。 4. 国際学会への参加の基盤となる英語力を修得する。 			
授業の内容と方法	講読した海外の看護学研究に用いられている学術用語、研究方法、研究内容等を学習成果として資料に要約し、発表する。看護学研究の概念枠組みと研究方法論、今後、必要とされる看護学研究の観点から討論を展開する。			
	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習（学習課題）
	1	講読文献の理解、研究批評(1)	発表・討論	特別研究と関連づけて文献を選択・精読する。
	2	講読文献の理解、研究批評(2)		
	3	講読文献の理解、研究批評(3)		
	4	講読文献の理解、研究批評(4)		
	5	講読文献の理解、研究批評(5)		
	6	講読文献の理解、研究批評(6)		
	7	講読文献の理解、研究批評(7)		
	8	講読文献の理解、研究批評(8)		
	9	講読文献の理解、研究批評(9)		
	10	講読文献の理解、研究批評(10)		
	11	講読文献の理解、研究批評(11)		
	12	講読文献の理解、研究批評(12)		
	13	講読文献の理解、研究批評(13)		
	14	講読文献の理解、研究批評(14)		
15	講読文献の理解、研究批評(15)			
			担当	
			特別研究指導を担当する教員	

看護学研究科（博士前期課程）

	終了後レポートの課題『実践看護学構築論（看護学の革新と看護研究）を通して学んだこと』 15回を通して講読した文献を再検討し、研究批評の内容に基づき、今後必要となる看護学研究の特徴を述べる。		
自己学修時間	30 時間		
評価方法	資料（40％）発表と討論（30％）、終了後レポート（30％）		
参考書 参考文献等			
オフィスアワー	月曜日 / 17 時～18 時 / 研究室	連絡先	nakanisi@gchs.ac.jp
履修要件	特になし		
備考	実践看護学を主専攻とする学生は必ず履修する。		

科目区分	専門科目		聴講	不可	
授業科目名	看護学演習（実践看護学展開論）		科目履修	不可	
科目番号	MN00010	クラス番号	MN1		
授業形式	演習	必修選択区分	選択必修		
開講時期	1年次・通年	単位	8単位 240時間		
科目責任者	横山京子	その他			
担当教員	行田智子 横山京子 中西陽子 狩野太郎 齋藤 基 巴山玉蓮 石川良樹 宮崎有紀子 高井ゆかり 廣瀬規代美 大澤真奈美 飯田苗恵				
授業の概要	本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に意義を見出すことのできる人材育成に必要な科目として、看護学演習（実践看護学展開論）を提供する。看護学演習（実践看護学展開論）を通し、学生は、関心領域の文献のなかから EBP に活用可能な研究成果を選択し、その検証方法を検討する。選択した研究成果の検証を通し、EBP に耐えうる研究成果を産出する意義、EBP に耐えうる研究成果の要件を考察する。学生は、自己の興味・関心に基づき担当教員を選択し、グループを形成する。授業は、形成されたグループ毎に展開する。教員は、看護技術学、生涯発達看護学（母胎期、乳幼児期・学童期、思春期、成人期）、地域健康看護学、看護政策管理学という各々が専門とする内容を織り込みながら担当グループの授業を展開する。				
目的	国内外の看護学研究の現状の理解を前提とし、研究成果の検証を通し、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）に耐えうる研究成果の要件を理解する。				
目標	1. 国内外の研究論文を精読し、関心領域の研究成果の産出状況を理解する。 2. 自己の問題現象に既存の研究成果を適用し、その活用可能性を検証する。 3. 1.2. を通し、新たな研究成果を産出する必要性を述べる。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習（学習課題）	担当
	1～5	国内文献の講読 国内の看護学研究を講読し、学術用語、研究方法、研究内容等、理解した内容に基づき資料を作成する。作成した資料に基づき学習内容を発表し、看護学研究の概念枠組みと研究方法論、今後、必要とされる看護学研究の観点から担当教員と討論を展開する。	発表・討論	国内文献の精読・要約・批評	学生の興味・関心により担当教員を決定する
	6～20	海外文献の講読 海外の看護学研究を講読し、学術用語、研究方法、研究内容等、理解した内容に基づき資料を作成する。作成した資料に基づき学習内容を発表し、看護学研究の概念枠組みと研究方法論、今後、必要とされる看護学研究の観点から担当教員と討論を展開する。	発表・討論	海外文献の精読・要約・批評	
	21	研究成果の活用可能性の検証(1) - 文献検討に基づく検証内容の焦点化	発表・討論 発表・討論	検証内容の焦点化	
	22	研究成果の活用可能性の検証(2) - 文献検討に基づく検証内容の焦点化			
	23	研究成果の活用可能性の検証(3) - 検証方法の検討			
	24	研究成果の活用可能性の検証(4) - 検証方法の検討			
25	研究成果の活用可能性の検証(5) - 検証に向けた計画書の作成	計画書の作成			

	26	研究成果の活用可能性の検証(6) - 検証に向けた計画書の作成	発表・討論	計画書の作成
	27	研究成果の活用可能性の検証(7) - 検証の実践	演習	実践に向けた準備
	28	研究成果の活用可能性の検証(8) - 検証の実践		
	29	研究成果の活用可能性の検証(9) - 検証結果の報告	発表・討論	検証結果の報告
	30	研究成果の活用可能性の検証(10) - 検証過程・成果の評価	発表・討論	検証結果の報告・評価
<p>終了後レポートの課題『看護学演習（実践看護学展開論）を通して学んだこと』 文献検討、研究成果活用可能性の検証結果に基づき、看護実践の充実・発展・変革に向けた自己の研究課題を明確化する。</p>				
自己学修時間	120 時間			
評価方法	発表と討論（70%）、終了後レポート（30%）			
参考書 参考文献等				
オフィスアワー	月曜日 / 17 時 ~ 18 時 / 研究室	連絡先	k.yokoyama@gchs.ac.jp	
履修要件	特になし			
備考	実践看護学を主専攻とする学生は必ず履修する。			

科目区分	専門科目		聴講	可		
授業科目名	看護教育学（看護教育学の基礎知識）		科目履修	可		
科目番号	MN00011	クラス番号	MN1			
授業形式	演習・講義	必修選択区分	選択必修			
開講時期	1年次・前期	単位	2単位 60時間			
科目責任者	服部美香	その他				
担当教員	服部美香 松田安弘 山下暢子、金谷悦子					
授業の概要	<p>本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に意義を見出すことのできる人材育成に必要な科目として、看護教育学（看護教育学の基礎知識）を提供する。科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けては、科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE：Evidence-Based Nursing Education）が必要不可欠である。学生は、看護教育学（看護教育学の基礎知識）を通し、EBNEを展開するために必要な普遍的要素として、看護教育学の基礎知識を理解する。看護基礎教育・卒後教育・継続教育の前提となる看護教育学の理論に加え、関連学問領域の理論・主要概念を学習する。また、質の高い看護学教育の実現に向け、看護教育学を充実・発展・革新させていくことの意義を理解する。</p> <p>具体的には、課題図書『看護教育学』の講読演習を展開し、看護教育学の歴史、看護教育制度、看護学教育課程、看護学教育組織運営論、看護学教育授業展開論、看護学教育評価論、看護継続教育論に関わる基礎知識を提供する。また、学生の発表内容を査定し、補完すべき知識を提供する。</p>					
目的 的 標 目	<p>目的：看護基礎教育・卒後教育・継続教育の前提となる諸理論と主要概念、関連概念を学習し、多様な教育現象への適用を通し、学習成果として理論・概念への理解を深める。</p> <p>目標：1. 看護教育学の基礎知識を用いて、過去に遭遇した看護教育に関わる現象を説明する。 2. 1を通して、看護教育学の充実・発展・革新に向けた課題を述べる。</p>					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習(学習課題)	担当	
	1	看護教育学創造への道(1) ：はじめに	講義	<p><事前学習> 課題図書『看護教育学』の精読・要約</p> <p><事後学習> 授業終了後、課題レポートを提出する。</p>	服部	
	2	看護教育学創造への道(2) ：看護教育学への模索 ：看護教育学研究の成果と蓄積	発表・討議			
	3	看護教育制度論(1) ：看護教育制度の成り立ち				
	4	看護教育制度論(2) ：看護教育制度の特徴、看護教育制度と学位				
	5	看護学教育課程論(1) ：看護学教育課程の体系化、 教育目的・目標の設定、教育内容の選定				
	6	看護学教育課程論(2) ：教育内容の組織化、教育内容の提供、 教育評価				
	7	看護学教育組織運営論 ：看護学教育組織運営論としての体系化 看護学教育組織運営論からみた看護学 教育の諸問題				松田
	8	看護学教育授業展開論(1) ：看護学教育における授業展開を支える 理論・知識				金谷

	9	看護学教育授業展開論(2) ：看護学教育における授業展開	発表・討議		金谷
	10	看護学教育授業展開論(3) ：対象理解に基づく看護学実習展開			山下
	11	看護学教育授業展開論(4) ：教授活動理解に基づく看護学実習展開			金谷
	12	看護学教育評価論(1) ：教育評価			山下
	13	看護学教育評価論(2) ：看護学教育における授業評価の実際，大学の自己点検・評価の背景			
	14	看護継続教育論(1) ：看護継続教育の領域、関連用語及び概念 看護継続教育の対象と学習ニード 看護職者が所属する施設の教育としての「院内教育」			松田
	15	看護継続教育論(2) ：看護職者が所属する施設の教育としての「ファカルティ・ディベロップメント(FD)」			
<p>課題レポート テーマ：『看護教育学』を通して学んだこと 内 容：15回の授業を通して得た知識に基づき、学生個々が過去に遭遇した「看護教育」にかかわる問題を明確化し、それを解決するために必要な課題を述べる。</p>					
自己学修時間	30 時間				
評価方法	発表（40%），討議（20%），課題レポート（40%）				
参考書 参考文献等	杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学 第6版，医学書院，2016．				
オフィスアワー	火曜日 / 17時から 18時 / 研究室	連絡先	hattori@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備考	看護教育学を主専攻とする学生は必ず履修する。				

科目区分	専門科目		聴講	可	
授業科目名	看護教育学（看護学教育を支える理論と知識）		科目履修	可	
科目番号	MN00012	クラス番号	MN1		
授業形式	演習	必修選択区分	選択必修		
開講時期	1年次・後期	単位	2単位 60時間		
科目責任者	松田安弘	その他			
担当教員	松田安弘 山下暢子 服部美香				
授業の概要	<p>本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に意義を見出すことのできる人材育成に必要な科目として、看護教育学（看護学教育を支える理論と知識）を提供する。EBPの実現に向けては、科学的根拠に基づく看護学教育（Evidenced-Based Nursing Education：EBNE）が必要不可欠である。看護教育学（看護学教育を支える理論と知識）を通し、学生は、看護教育学で得た知識を前提とし、EBNEのうち、医療機関・教育機関における教育コーディネーターとしての役割と機能を発揮するために必要な知識を修得する。具体的には、国内外の看護継続教育に関する諸理論を学習し、成人を対象とした教育の特徴を理解する。具体的には、課題図書『成人教育の意味』、『成人教育の現代的実践 - ペタゴジーからアンドラゴジーへ - 』、『看護学教育における授業展開』の講読演習を展開し、成人教育の原理と成人を対象とした授業展開に必要な基礎知識を提供する。また、学生の発表内容を査定し、補完すべき知識を提供する。</p>				
目的	<p>目的：科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE：Evidence-Based Nursing Education）に必要な成人を対象とした教育に必要な基礎理論、教育コーディネーターとしての役割と機能の基礎知識を理解する。</p> <p>目標：1.看護継続教育を展開するために必要な基礎知識を修得する。 2.教育コーディネーターとして教育活動を展開するために必要な基本的知識を修得する。 3.1.2.を前提とし、教育コーディネーターとしての自己の課題を述べる。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
	1	成人を対象とした教育の特徴を理解する意義と必要性	講義	<事前学習> 課題図書『成人教育の意味』を精読し、要約する。	山下
	2	成人教育の基礎理論(1) - 学習者となるべき者へ - 知性に対する信念を有する者へ	発表・討議		
	3	成人教育の基礎理論(2) - 力の使用について - 自己表現の必要性について			
	4	成人教育の基礎理論(3) - 自由を欲する者へ - 創造しようとする者へ			
	5	成人教育の基礎理論(4) - 鑑賞をしようとしている者たちへ - 専門家主義の時代に			
	6	成人教育の基礎理論(5) - 共同的活動への原動力として - 成人教育の方法について			
	7	成人教育の現代的実践の基礎知識(1) - 現代的実践とは何か - 成人教育者の役割と使命とは - アンドラゴジーとは何か	発表・討議	<事前学習> 課題図書『成人教育の現代的実践 - ペタゴジーからアンドラゴジーへ - 』を精読し、	松田
	8	成人教育の現代的実践の基礎知識(2) - 学習組織のための雰囲気と構造の確立 - プログラム計画におけるニーズと関心の診断			

	9	成人教育の現代的実践の基礎知識(3) - 目的と目標の定義 - 包括的なプログラムのデザイン	発表・討議	要約する。 ＜事前学習＞ 課題図書『看護学教育における授業展開』を精読し、要約する。 ＜事後学習＞ 授業終了後、課題レポートを提出する。	服部
	10	成人教育の現代的実践の基礎知識(4) - 包括的なプログラムの実施			
	11	成人教育の現代的実践の基礎知識(5) - 包括的なプログラムの評価 - 学習活動のデザインと運営			
	12	看護学教育における授業展開(1) - 授業とは何か - 授業展開のための基礎知識			
	13	看護学教育における授業展開(2) - 看護学の授業に臨む学生と教員の理解			
	14	看護学教育における授業展開(3) - 看護学の講義と教授活動・学習活動 - 看護学演習と教授活動・学習活動			
	15	看護学教育における授業展開(4) - 看護学実習と教授活動・学習活動			
<p>課題レポート テーマ：『看護教育学を通して学んだこと』 内 容：教育コーディネーターとして役割を果たすという観点から自己の課題を論述する。</p>					
自己学修時間	30 時間				
評価方法	発表（40%）、討議（20%）、終了後レポート（40%）				
参考書 参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・エデュアード・リンデマン：成人教育の意味，学文社，1996. ・M.ノールズ：成人教育の現代的実践 - ペタゴジーからアンドラゴジーへ - ，鳳書房，2002. ・舟島なをみ監修：看護学教育における授業展開 質の高い講義・演習・実習の実現に向けて，医学書院，2013. ・杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学 第6版，医学書院，2016 . 				
オフィスアワー	木曜日 / 18時から 19時 / 研究室	連絡先	matuda@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備考	・看護教育学を主専攻とする学生は必ず履修する。				

科目区分	専門科目	聴講	可																																										
授業科目名	看護学演習（看護教育学研究）	科目履修	可																																										
科目番号	MN00013	クラス番号	MN1																																										
授業形式	演習	必修選択区分	選択必修																																										
開講時期	1年次・通年	単位	8単位 240時間																																										
科目責任者	松田安弘	その他																																											
担当教員	松田安弘 山下暢子 服部美香 金谷悦子																																												
授業の概要	<p>本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に資する研究成果を産出できる人材育成に必要な科目として、看護学演習（看護教育学研究）を提供する。</p> <p>受講者は、この科目を通し、看護教育学の理念を反映した研究についての理解を深め、看護教育学研究の遂行に必要な知識、技術、態度を修得する。また、関心領域の研究論文のなかから EBP に活用可能な国内及び海外の看護学研究を探索、精読し、研究批評を通して、看護現象や看護学教育に関わる現象を構成する知識・技術の現状を理解する。これらの学習を前提とし、看護実践・教育実践の質向上と看護職者個々人の発達に資する看護教育学研究の課題を焦点化する。</p>																																												
目的	<p>目的：看護教育学の理念を反映した研究についての理解を深め、看護教育学研究の遂行に必要な知識、技術、態度を修得する。また、特別研究のテーマとの関連から国内外の看護学研究を探索、精読し、研究批評を通して今後あらたに必要となる看護教育学研究を焦点化する。</p> <p>目標：1.看護教育学研究の体系と看護教育学研究のための方法論を説明する。 2.国内・海外の看護学研究を選択し、批判的に精読する。 3.選択した研究に用いられている学術用語、研究方法、研究内容等を要約し、発表 4.1.2.3を通して、今後必要とされる看護教育学研究の内容と自己の関心領域に関する研究への示唆を論述する。</p>																																												
授業の内容と方法	<p>[学科目標 1] 前期セメスター（木 / 限）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> <th>事前・事後学習(学習課題)</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>課題図書『看護教育学研究』第1章</td> <td>講義</td> <td rowspan="15"><事前学習> 課題図書『看護教育学研究』を精読し、要約する。 看護教育学研究の関連文献を選択・精読する <事後学習> 授業終了後、課題レポートを提出する。</td> <td rowspan="3">松田</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>課題図書『看護教育学研究』第2章</td> <td rowspan="15">発表・討論</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>課題図書『看護教育学研究』第3章</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>課題図書『看護教育学研究』第3章</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>課題図書『看護教育学研究』第3章</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>課題図書『看護教育学研究』第4・5章</td> <td rowspan="2">金谷</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>課題図書『看護教育学研究』第6章</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>課題図書『看護教育学研究』第6章</td> <td rowspan="7">服部</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>課題図書『看護教育学研究』第7章</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>課題図書『看護教育学研究』第7章</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>課題図書『看護教育学研究』第7章</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>課題図書『看護教育学研究』第7章</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>課題図書『看護教育学研究』第7章</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>課題図書『看護教育学研究』第7章</td> <td rowspan="2">山下</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>課題図書『看護教育学研究』第7章</td> </tr> </tbody> </table> <p>[学科目標 2 . 3] 前期セメスター（木 / 限）</p> <p>事前学習として、自己の興味・関心に基づき、医学中央雑誌及びCINAHLを用いて国内外の研究論文を検索、入手、精読し、批評する。選択した論文を事前に提出する。授業当日は、作成した資料を用いて、論文の概要と批評した内容を発表し、研究指導教員及び研究指導補助教員から助言を得る。</p> <p>講読した国内外の看護学研究に用いられている学術用語、研究方法、研究内容等を学習成</p>			回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)	担当	1	課題図書『看護教育学研究』第1章	講義	<事前学習> 課題図書『看護教育学研究』を精読し、要約する。 看護教育学研究の関連文献を選択・精読する <事後学習> 授業終了後、課題レポートを提出する。	松田	2	課題図書『看護教育学研究』第2章	発表・討論	3	課題図書『看護教育学研究』第3章	4	課題図書『看護教育学研究』第3章	5	課題図書『看護教育学研究』第3章	6	課題図書『看護教育学研究』第4・5章	金谷	7	課題図書『看護教育学研究』第6章	8	課題図書『看護教育学研究』第6章	服部	9	課題図書『看護教育学研究』第7章	10	課題図書『看護教育学研究』第7章	11	課題図書『看護教育学研究』第7章	12	課題図書『看護教育学研究』第7章	13	課題図書『看護教育学研究』第7章	14	課題図書『看護教育学研究』第7章	山下	15	課題図書『看護教育学研究』第7章
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)	担当																																									
1	課題図書『看護教育学研究』第1章	講義	<事前学習> 課題図書『看護教育学研究』を精読し、要約する。 看護教育学研究の関連文献を選択・精読する <事後学習> 授業終了後、課題レポートを提出する。	松田																																									
2	課題図書『看護教育学研究』第2章	発表・討論																																											
3	課題図書『看護教育学研究』第3章																																												
4	課題図書『看護教育学研究』第3章																																												
5	課題図書『看護教育学研究』第3章																																												
6	課題図書『看護教育学研究』第4・5章			金谷																																									
7	課題図書『看護教育学研究』第6章																																												
8	課題図書『看護教育学研究』第6章			服部																																									
9	課題図書『看護教育学研究』第7章																																												
10	課題図書『看護教育学研究』第7章																																												
11	課題図書『看護教育学研究』第7章																																												
12	課題図書『看護教育学研究』第7章																																												
13	課題図書『看護教育学研究』第7章																																												
14	課題図書『看護教育学研究』第7章				山下																																								
15	課題図書『看護教育学研究』第7章																																												

	果として資料に要約し、発表する。看護学研究の概念枠組みと研究方法論、今後、必要とされる看護学研究の観点から討論を展開する。				
	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
	1	講読国内文献の理解、研究批評(1)	発表・討論	<事前学習> 特別研究と関連づけて文献を選択・精読する。	特別研究指導を担当する教員
	2	講読国内文献の理解、研究批評(2)			
	3	講読国内文献の理解、研究批評(3)			
	4	講読国内文献の理解、研究批評(4)			
	5	講読国内文献の理解、研究批評(5)			
	6	講読海外文献の理解、研究批評(6)			
	7	講読海外文献の理解、研究批評(7)			
	8	講読海外文献の理解、研究批評(8)			
	9	講読海外文献の理解、研究批評(9)			
	10	講読海外文献の理解、研究批評(10)			
	11	講読海外文献の理解、研究批評(11)			
	12	講読海外文献の理解、研究批評(12)			
	13	講読海外文献の理解、研究批評(13)			
	14	講読海外文献の理解、研究批評(14)			
	15	講読海外文献の理解、研究批評(15)			
	[学科目標 2 . 3] 後期 Semester (火 / . 限)				
	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
	1・2	講読海外文献の理解、研究批評(1)	発表・討論	<事前学習> 特別研究と関連づけて文献を選択・精読する。	特別研究指導を担当する教員
	3・4	講読海外文献の理解、研究批評(2)			
	5・6	講読海外文献の理解、研究批評(3)			
	7・8	講読海外文献の理解、研究批評(4)			
	9・10	講読海外文献の理解、研究批評(5)			
	11・12	講読海外文献の理解、研究批評(6)			
	13・14	講読海外文献の理解、研究批評(7)			
	15・16	講読海外文献の理解、研究批評(8)			
	17・18	講読海外文献の理解、研究批評(9)			
	19・20	講読海外文献の理解、研究批評(10)			
	21・22	講読海外文献の理解、研究批評(11)			
	23・24	講読海外文献の理解、研究批評(12)			
	25・26	講読海外文献の理解、研究批評(13)			
	27・28	講読海外文献の理解、研究批評(14)			
	29・30	講読海外文献の理解、研究批評(15)			
	課題レポート テーマ：『看護学演習（看護教育学研究）』を通して学んだこと 内容：講読した文献を再検討し、研究批評の内容に基づき、今後必要となる看護学研究の特徴を述べる。				
自己学修時間	120 時間				
評価方法	発表内容・方法（70%）、終了後レポート（30%）				
参考書 参考文献等	杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学 第6版，医学書院，2016. 舟島なをみ：看護教育学研究 第2版，医学書院，2010 . 舟島なをみ：質的研究への挑戦，第2版，医学書院，2007 .				
オフィスアワー	木曜日 / 18時から19時 / 研究室	連絡先	matuda@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備考	看護教育学を主専攻とする学生は必ず履修する。				

科目区分	特別研究	聴講	不可
授業科目名	特別研究	科目履修	不可
科目番号	MN00014	クラス番号	MN1
授業形式	演習	必修選択区分	必修
開講時期	1・2年次，通年	単位	12単位 360時間
科目責任者	巴山玉蓮	その他	
担当教員	巴山玉蓮 石川良樹 狩野太郎 齋藤基 高井ゆかり 中西陽子 行田智子 宮崎有紀子 横山京子 松田安弘 山下暢子 飯田苗恵 大澤真奈美 廣瀬規代美 服部美香		
授業の概要	<p>本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に資する研究成果を産出することのできる人材育成に必要な科目として、特別研究を提供する。特別研究を通し、学生は、質の高い看護実践、あるいは、質の高い看護学教育の提供という観点から、EBP及び科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE：Evidence-Based Nursing Education）の根拠となりうる研究成果の産出を試みる。具体的には、個々の興味・関心に従い累積した学習成果を活用し、研究課題の焦点化、研究方法論の決定を行い、研究計画書を作成する。研究計画に基づくデータ収集・分析、論文作成、発表、評価に至るまでの一連の研究過程を通し、看護学研究の成果を産出・累積する意義を認めるとともに看護専門職としての研究的態度を修得する。</p> <p>【実践看護学】 （石川良樹） 実践看護学領域の研究課題を選択した学生のうち、ロコモティブシンドローム等の運動機能の改善に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 主な研究課題 (1)運動刺激、外部刺激による筋組織、筋蛋白質の機能・発現回復に関する研究 (2)運動刺激、外部刺激による神経と筋肉の接合部再形成に関する研究</p> <p>（狩野太郎） 実践看護学領域の研究課題を選択した学生のうち、老年看護学に関わる研究課題及びがん看護に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 主な研究課題 (1)高齢者が持つ身体・心理・社会的強みを引き出す看護援助に関する研究 (2)高齢者ケアを学ぶ学生およびケア従事者の高齢者イメージに関する研究 (3)がん患者の症状マネジメントおよび、高齢がん患者の看護援助に関する研究</p> <p>（齋藤 基） 実践看護学領域の研究課題を選択した学生のうち、地域看護活動、在宅看護活動に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 主な研究課題 (1)生活習慣病の保健指導に関する研究 (2)家族介護者の介護行動に関する研究 (3)地域看護活動における実践課題に関する研究</p> <p>（高井ゆかり） 実践看護学領域の研究課題を選択した学生のうち、老年看護学や疼痛管理に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 主な研究課題 (1)疼痛管理やアセスメントおよびシステム構築に関する研究 (2)認知症高齢者とその家族員の経験探索に関する研究 (3)多様な場で展開される高齢者へのケアの質向上に関する研究 (4)家族看護に関する研究</p> <p>（巴山玉蓮） 実践看護学領域の研究課題を選択した学生のうち、看護政策管理に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 主な研究課題 (1)看護職の意思決定に関する研究 (2)看護職のワーク・ライフ・バランスに関する研究 (3)潜在看護師の再就業に関する研究</p>		

	<p>（中西陽子） 実践看護学領域の研究課題を選択した学生のうち、がん及び他疾患の急性期・慢性期・終末期にある人々とその家族への看護に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 主な研究課題 (1)慢性疾患患者の患者教育に関する研究 (2)がん終末期患者および家族の支援に関する研究 (3)遺族ケアに関する研究</p> <p>（行田智子） 実践看護学領域の研究課題を選択した学生のうち、妊婦・産婦・褥婦とその家族への看護、育児に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 主な研究課題 (1)親となる過程を促す妊娠期からの支援に関する研究 (2)妊娠期から産褥期の看護ケアに関する研究 (3)妊娠期から育児期にある母子と家族への支援に関する研究</p> <p>（宮崎有紀子） 実践看護学領域の研究課題を選択した学生のうち、ヘルスプロモーション、研究づくり支援活動に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 主な研究課題 (1)生活習慣および保健行動に関する研究 (2)生活習慣要因と健康に関する研究</p> <p>（横山京子） 実践看護学領域の研究課題を選択した学生のうち、小児期にある人々への看護、小児看護学教育に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 主な研究課題 (1)小児看護学教育に関する研究 (2)小児医療に携わる看護師に関する研究 (3)看護基礎教育課程に編入学した学生の学習経験に関する研究</p> <p>（飯田苗恵） 実践看護学領域の研究課題を選択した学生のうち、在宅看護、難病看護に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 主な研究課題 (1)訪問看護、退院支援等、在宅看護活動に関する研究 (2)難病等在宅療養者への療養生活支援に関する研究 (3)地域における医療的ケアの提供に関する研究</p> <p>（大澤真奈美） 実践看護学領域の研究課題を選択した学生のうち、公衆衛生看護（保健師活動）、精神障害を持つ者への訪問看護に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 主な研究課題 (1)乳幼児虐待予防及び発達障害が危惧される関わりの困難な親への看護援助に関する研究 (2)地域における精神障害者への看護援助（保健師活動、訪問看護活動）に関する研究 (3)看護における地域診断教育とパフォーマンス評価に関する研究</p> <p>（廣瀬規代美） 実践看護学領域の研究課題を選択した学生のうち、成人看護学やがん看護に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 主な研究課題 (1)機能障害を有するがん患者の看護支援に関する研究 (2)がん終末期患者及び家族の看護支援に関する研究 (3)生活習慣病を有する患者及び家族の看護支援に関する研究</p>
--	--

	<p>【看護教育学】 (松田安弘) 看護教育学領域の研究課題を選択した学生のうち、看護継続教育、教授 = 学習過程、看護における少数者に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 主な研究課題 (1)看護における少数者に関する研究 (2)院内教育に関する研究 (3)教員の教授活動に関する研究 (4)学生の学習活動に関する研究</p> <p>(山下暢子) 看護教育学領域の研究課題を選択した学生のうち、看護基礎教育・継続教育、主に看護学実習指導に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 主な研究課題 (1)看護学実習中の学習活動に関する研究 (2)看護学実習中の教授活動に関する研究</p> <p>(服部美香) 看護教育学領域の研究課題を選択した学生のうち、看護基礎教育・継続教育に関わる研究課題を持つ学生の特別研究指導を行う。 主な研究課題 (1)看護職者の問題解決に関する研究 (2)看護継続教育における教授活動に関する研究 (3)看護継続教育における学習活動に関する研究</p>																										
<p>目 的</p>	<p>研究課題の焦点化、データの収集・分析、論文作成、発表、評価に至る一連の研究過程を経験する。</p>																										
<p>目 標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 焦点化した研究課題の背景を述べる。 2. 研究目的・目標に合致した研究方法論を選択する。 3. 文献検討の結果に基づき、精度の高い研究計画書を作成する。 4. 既存の研究方法論を正確に適用し、データを収集・分析する。 5. 倫理的配慮に基づきデータを収集・分析する。 6. 構成要素に沿って研究論文を作成する。 7. 研究の概要を簡潔に説明する。 8. 看護専門職に必要な研究的態度を述べる。 9. 看護学研究成果を産出・累積する意義を述べる。 																										
<p>授業の内容と方法</p>	<p>15回 / 2年のゼミ形式の授業を基本に論文指導を行う。</p> <table border="1" data-bbox="357 1496 1455 1995"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業形態</th> <th>事前・事後学習 (学習課題)</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td rowspan="2">【1年次前期】 関連文献の精読を通して自己の興味・関心を焦点化し、研究課題を決定する。</td> <td>ゼミ</td> <td>研究課題の 明確化</td> <td rowspan="6">研究指導 教員及び 研究指導 補助教員</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ゼミ</td> <td>文献検討</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td rowspan="4">【1年次後期】 研究課題、研究方法論に関わる文献検討の結果に基づき、研究計画書を完成させる。 研究科委員会が指名する主査1名、副査2名による研究計画書の審査を受ける。 人を対象とする研究の場合は、倫理委員会に研究計画書を提出し、承認を得る。 倫理委員会の承認後、研究計画書に基づきデータを収集する。</td> <td>ゼミ</td> <td>文献検討</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ゼミ</td> <td>研究計画書の 作成</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ゼミ</td> <td>研究計画書の 作成</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ゼミ</td> <td>研究計画書 審査書類作成</td> </tr> </tbody> </table>	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当	1	【1年次前期】 関連文献の精読を通して自己の興味・関心を焦点化し、研究課題を決定する。	ゼミ	研究課題の 明確化	研究指導 教員及び 研究指導 補助教員	2	ゼミ	文献検討	3	【1年次後期】 研究課題、研究方法論に関わる文献検討の結果に基づき、研究計画書を完成させる。 研究科委員会が指名する主査1名、副査2名による研究計画書の審査を受ける。 人を対象とする研究の場合は、倫理委員会に研究計画書を提出し、承認を得る。 倫理委員会の承認後、研究計画書に基づきデータを収集する。	ゼミ	文献検討	4	ゼミ	研究計画書の 作成	5	ゼミ	研究計画書の 作成	6	ゼミ	研究計画書 審査書類作成
回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当																							
1	【1年次前期】 関連文献の精読を通して自己の興味・関心を焦点化し、研究課題を決定する。	ゼミ	研究課題の 明確化	研究指導 教員及び 研究指導 補助教員																							
2		ゼミ	文献検討																								
3	【1年次後期】 研究課題、研究方法論に関わる文献検討の結果に基づき、研究計画書を完成させる。 研究科委員会が指名する主査1名、副査2名による研究計画書の審査を受ける。 人を対象とする研究の場合は、倫理委員会に研究計画書を提出し、承認を得る。 倫理委員会の承認後、研究計画書に基づきデータを収集する。	ゼミ	文献検討																								
4		ゼミ	研究計画書の 作成																								
5		ゼミ	研究計画書の 作成																								
6		ゼミ	研究計画書 審査書類作成																								

	7	<p>【2年次前期】 研究計画書に基づき、データを収集・分析する。 データ収集・分析の適切性を評価する。 結果及び考察の論述を行う。</p> <p>【2年次後期】 研究指導教員の承認を得て、所定の書類とともに修士論文及び論文要旨を研究科長に提出する。 研究科委員会が指名する主査1名、副査2名による論文審査及び口頭試問を受ける。 最終試験として論文発表会の発表及び質疑応答に必要な準備を行う。 規定時間内に論文発表及び質疑応答を行う。</p>	ゼミ	倫理審査書類作成	
	8		ゼミ	データ収集	
	9		ゼミ	データ収集	
	10		ゼミ	データ分析	
	11		ゼミ	データ分析	
	12		ゼミ	研究結果の論述	
	13		ゼミ	考察の論述	
	14		ゼミ	論文審査準備	
	15		ゼミ	発表準備	
自己学修時間	180 時間				
評価方法	研究計画書審査，論文審査，論文発表及び質疑応答				
参考書 参考文献等					
履修要件	特になし				
オフィスアワー	火曜日 / 17 時 ~ 18 時 /	連絡先	tomoyama@gchs.ac.jp		
備考	<p>【14 条適用の学生が職場においてデータを収集する場合の倫理的配慮】</p> <p>1. 職場である保健医療機関、教育機関の責任者よりデータ収集許可文書を得る。 2. 1 の文書を含め、倫理委員会に必要書類を提出し、研究計画遂行の承認を得る。</p>				

科目区分	専門科目		聴講	不可	
授業科目名	教育実践演習		科目履修	不可	
科目番号	MN00101	クラス番号	MN1		
授業形式	演習	必修選択区分	必修		
開講時期	1年次・前期	単位	2単位 60時間		
科目責任者	松田安弘	その他			
担当教員	松田安弘 山下暢子 服部美香 金谷悦子				
授業の概要	<p>本研究科は、高等教育としての看護学教育の特徴と課題に精通し、教育内容の教材化・授業計画案作成・教授方略等の授業設計と展開に必要な知識・技術、その基盤となる看護学教育評価・看護学教育カリキュラム編成の知識・技術を駆使し、質の高い教育を展開することができる人材育成に必要な科目として、教育実践演習を提供する。この科目を通し、学生は、EBNE 展開の基礎となる講義の授業設計と展開に必要な知識・技術・態度を修得する。具体的には、授業の定義、授業形態、授業の成立の要件、教授技術、教材教具、授業設計の過程等、授業設計と展開に必要な基礎的知識を学習する。また、これらの基礎的知識に基づき、講義の授業設計と展開計画を立案し、模擬授業を行う。さらに、実施した模擬授業の評価を通して、講義の授業設計と展開に関わる自己の課題を見いだす。</p>				
目的	<p>目的：授業設計と展開に必要な知識と模擬授業の展開を通して、授業の目標達成に向けて効果的な講義の授業設計と展開に必要な基礎的能力を修得する。また、講義の授業設計と展開に関わる自己の課題を明確化する。</p>				
目標	<p>目標：1. 授業の成立要件と授業成立に向けた教授者の要件を説明する。 2. 講義の模擬授業の参加観察に基づき、授業設計の過程を説明する。 3. 講義の模擬授業の参加観察に基づき、講義の特徴とそれを反映した教授活動を説明する。 4. 1.2.3.を通して獲得した知識に基づき模擬授業を展開する。 5. 実施した模擬授業の評価を通して、講義の授業設計と展開に関わる自己の課題を考察する。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	教授者の教育に対する信念	演習	必要に応じて 課題を提示	松田
	2	教授者の教育に対する信念			
	3	教授者の教育に対する信念			
	4	教授者の教育に対する信念（発表）			
	5	授業の定義・形態・成立に必要な要件 授業成立に向けた教授者の要件 教授技術・教材教具	講義		
	6	授業設計の過程	講義		
	7	授業設計の過程			
	8	授業設計の過程			
	9	授業設計の過程			
	10	授業設計の過程			
	11	授業の実際（講義の模擬授業の参加観察）	実習		
	12	参加観察した講義の授業設計	講義		
	13	講義の参加観察による授業設計の過程の理解 ・グループワーク	演習	松田 山下 服部 金谷	
	15				・成果発表
	16	講義の定義・講義の特徴	講義		松田
	17	講義の実際（学部授業の参加観察）	実習		
	18	講義の参加観察による講義の特徴の理解 ・グループワーク	演習		松田 山下 服部 金谷
	20				

	21	講義の特徴を反映した授業設計と展開（学部授業の参加観察）	実習		松田
	22 24	講義の授業設計と展開上生じやすい問題 ・グループワーク ・成果発表	演習		松田 山下 服部 金谷
	25 30	仮想学校のカリキュラムに即した講義の授業設計と展開 ・個人ワーク ・模擬授業 ・課題の明確化 ・授業設計と展開計画の改善	演習		
自己学修時間	30 時間				
評価方法	グループワークの参加状況（30%）、成果発表（70%）				
参考書 参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学 第6版，医学書院，2016． ・舟島なをみ監修：看護学教育における授業展開 質の高い講義・演習・実習の実現に向けて，医学書院，2013. ・舟島なをみ監訳：看護学教育における講義・演習・実習の評価，医学書院，2009. 				
オフィスアワー	木曜日 / 18時から 19時 / 研究室	連絡先	matuda@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備考					

科目区分	専門科目		聴講	不可	
授業科目名	教育実践演習		科目履修	不可	
科目番号	MN00102	クラス番号	MN1		
授業形式	演習	必修選択区分	必修		
開講時期	1年次・後期	単位	4単位 120時間		
科目責任者	松田安弘	その他			
担当教員	松田安弘 山下暢子 服部美香 金谷悦子				
授業の概要	<p>本研究科は、高等教育としての看護学教育の特徴と課題に精通し、教育内容の教材化・授業計画案作成・教授方略等の授業設計と展開に必要な知識・技術、その基盤となる看護学教育評価・看護学教育カリキュラム編成の知識・技術を駆使し、質の高い教育を展開することができる人材育成に必要な科目として、教育実践演習を提供する。この科目を通し、学生は、EBNE 展開の基礎となる看護学演習・実習の授業設計と展開に必要な知識・技術・態度を修得する。具体的には、演習の定義と種類、演習の授業設計、看護現象の教材化、実習における教授活動・学習活動の形成的評価と総括的評価等、演習・実習の授業設計と展開に必要な基礎的知識を学習する。また、これらの基礎的知識に基づき、技術演習・実習指導の授業設計と展開計画を立案する。さらに、実施した模擬授業と実習指導計画の立案の評価を通して、看護学演習・実習の授業設計と展開に関わる自己の課題を見いだす。</p>				
目的	<p>目的：看護学演習・実習の授業設計と展開に必要な知識と模擬授業の展開を通して、授業の目標達成に向けて効果的な演習・実習の授業設計と展開に必要な基礎的能力を修得する。また、演習・実習の授業設計と展開に関わる自己の課題を明確化する。</p> <p>目標：1. 演習の特徴に関連づけて演習の授業設計の過程を説明する。 2. 演習の参加観察に基づき、演習の授業設計の過程を説明する。 3. 演習の参加観察に基づき、演習の特徴とそれを反映した教授活動を説明する。 4. 1.2.3.を通して獲得した知識に基づき、演習の模擬授業を展開する。 5. 看護学実習の特徴に関連づけて目標達成に必要な教授活動を説明する。 6. 5.を通して獲得した知識に基づき、仮想学校のカリキュラムに即した実習指導計画を立案する。 7. 実施した模擬授業と実習指導計画の立案の評価を通して、看護学演習・実習の授業設計と展開に関わる自己の課題を考察する。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	授業形態「演習」の定義と種類、演習の特徴	講義	必要に応じて課題を提示	松田
	2	看護学演習の授業設計（技術演習）			
	3	看護学演習参加観察オリエンテーション			
	4	技術演習 A に連動する講義の参加観察	実習		山下 服部 金谷
	5	技術演習 A 講義の参加観察による学習成果	演習		
	6	技術演習 A の参加観察	実習		
	7	技術演習 A の参加観察による学習成果	演習		
	9				
	10	グループワークに連動する講義の参加観察	実習		
	11	グループワークの参加観察			
	12				
	13	グループワークの参加観察による学習成果	演習		
	14		講義		
	15		演習		
	16	技術演習 B に連動する講義の参加観察	実習		
	17	技術演習 B 講義の参加観察による学習成果	演習		
	18	技術演習 B の参加観察	実習		

	19 21	技術演習 B の参加観察による学習成果	演習		山下 服部 金谷
	22	看護学演習の授業設計（技術演習）	講義		松田
	23 39	看護学演習（技術演習）の授業設計と展開計画の立案	演習		山下 服部 金谷
	40 43	看護学演習（技術演習）の模擬授業	演習		
	44 45	効果的な演習展開に向けた課題	演習		
	46 48	実習指導上直面する問題とその克服 ・グループワーク ・成果発表	演習		
	49	看護学実習における教授活動と学習活動の特徴	講義		松田
	50 51	看護学実習における教授活動： 形成的評価に基づく指導			
	52 53	看護学実習における教授活動： 看護現象の教材化			
	54	看護学実習における教授活動： カンファレンス			
	55	看護学実習における教授活動： 総括的評価			
	56	看護学実習における教授活動： オリエンテーション			
	57	実習指導計画の立案			
	58 60	仮想学校のカリキュラムに即した実習指導計画の立案	演習		山下 服部 金谷
自己学修時間	60 時間				
評価方法	グループワークの参加状況（30%）、成果発表（70%）				
参考書 参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学 第6版，医学書院，2016. ・舟島なをみ監修：看護学教育における授業展開 質の高い講義・演習・実習の実現に向けて，医学書院，2013. ・舟島なをみ監訳：看護学教育における講義・演習・実習の評価，医学書院，2009. 				
オフィスアワー	木曜日 / 18時から 19時 / 研究室	連絡先	matuda@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備考					

科目区分	専門科目		聴講	不可		
授業科目名	課題発見実習		科目履修	不可		
科目番号	MN00103	クラス番号	MN1			
授業形式	実習	必修選択区分	必修			
開講時期	1・2年次・通年	単位	4単位 120時間			
科目責任者	松田安弘	その他				
担当教員	松田安弘 山下暢子 服部美香 金谷悦子					
授業の概要	<p>本研究科は、高等教育としての看護学教育の特徴と課題に精通し、教育内容の教材化・授業計画案作成・教授方略等の授業設計と展開に必要な知識・技術、その基盤となる看護学教育評価・看護学教育カリキュラム編成の知識・技術を駆使し、質の高い教育を展開することができる人材育成に必要な科目として、課題発見実習を提供する。この科目を通し、学生は、EBNE 展開に必要な自己の課題を見出し、看護学教育に関わる課題の解決能力を修得する。具体的には、他教員が実践する授業（講義・演習・実習）の参加観察、学生が所属する施設等における授業の設計と展開の実施、看護学教員養成課程生が実施するカリキュラム編成の参加観察を通して、看護学教育の充実に向けた課題を明確にする。その際、担当教員の助言を受けながら学習活動を展開する。また、これらの経験を通し、教育実践者あるいは教育コーディネーターとしての役割とその機能を現実的に発揮するために、学術的に解決が必要な自己の課題を検討する。</p>					
目的	<p>目的：看護基礎教育課程において実践されている授業（講義・演習・実習）の設計と展開、カリキュラム編成とその運営の現状理解を通し、看護学教育の充実に向けた課題を明確にするとともに、学術的に解決が必要な自己の課題を見いだす。</p> <p>目標：1. 教員が実践する授業の設計と展開、カリキュラム編成とその運営に関わる現状を説明する。 2. 1.に基づき、提供する教育の質向上に向けた教育実践を展開する。 3. 1.2を通し、現行の看護学教育の充実に向けた課題を明確にする。 4. 1.2.3.を通し、教育実践者あるいは教育コーディネーターとしての役割とその機能を現実的に発揮するために、学術的に解決が必要な自己の課題を成文化する。</p>					
目的						
目的						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当	
	1	実習オリエンテーション	講義	教育機関等が提供する講義・演習・実習の情報収集とシラバスの内容理解	松田	
	2 16	教育機関等が提供する授業（講義・演習）の設計と展開の現状理解と実践	参加観察 実習		課題に関連する看護学教育の動向、関連文献の精読と内容理解	松田 山下 服部 金谷
	17 31	教育機関等が提供する授業（実習）の設計と展開の現状理解と実践				
	32 40	カリキュラム編成上の問題とその解決に必要な要素の理解（看護学教員養成課程生が実施するカリキュラム編成の参加観察）	参加観察			
	41 49	教育機関等の教員が実践するカリキュラム運営の現状理解	参加観察			
	50 55	現行の看護学教育の充実に向けた課題の明確化	演習			
	56 60	学術的に解決が必要な自己の課題の成文化				

	<p>終了後レポートの課題『課題発見実習の授業を通して学んだこと』 60回の授業を通して得た知識に基づき、教育実践者及び教育コーディネーターとしての役割とその機能を現実的に発揮するために、学術的に解決が必要な自己の課題を系統的に論述する。</p>		
自己学修時間	60 時間		
評価方法	実習の参加状況（60%）、終了後レポート（40%）		
参考書 参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学 第6版，医学書院，2016． ・舟島なをみ監修：看護学教育における授業展開 質の高い講義・演習・実習の実現に向けて，医学書院，2013. ・舟島なをみ監訳：看護学教育における講義・演習・実習の評価，医学書院，2009. ・G,トレス他：看護教育カリキュラム その作成過程 ，医学書院，1998． 		
オフィスアワー	木曜日 / 18時から 19時 / 研究室	連絡先	matuda@gchs.ac.jp
履修要件	特になし		
備考	参加観察及び実習を行う施設については担当教員と相談の上、決定する。		

科目区分	課題研究		聴講	不可
授業科目名	課題研究		科目履修	不可
科目番号	MN00104	クラス番号	MN1	
授業形式	演習	必修選択区分	必修	
開講時期	1・2年次・通年	単位	12単位 360時間	
科目責任者	山下暢子	その他		
担当教員	山下暢子 松田安弘 服部美香			
授業の概要	<p>本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に資する研究成果を産出することのできる人材育成に必要な科目として、課題研究を提供する。課題研究を通し、学生は、質の高い看護学教育の提供という観点から、科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE：Evidence-Based Nursing Education）の根拠となりうる研究成果の産出を試みる。具体的には、個々の興味・関心に従い累積した学習成果を活用し、課題の焦点化、研究方法論の決定を行い、研究計画書を作成する。研究計画に基づくデータ収集・分析、論文作成、発表、評価に至るまでの一連の研究過程を通し、看護学研究の成果を産出・累積する意義を認めるとともに看護専門職としての研究的態度を修得する。</p> <p>【看護教育学】 （山下暢子） 看護教育学領域の課題を選択した学生のうち、看護基礎教育・継続教育、主に看護学実習指導に関わる課題を持つ学生の課題研究指導を行う。 主な研究課題 (1) 看護学実習中の学習活動に関する研究 (2) 看護学実習中の教授活動に関する研究</p> <p>（松田安弘） 看護教育学領域の課題を選択した学生のうち、看護継続教育、教授＝学習過程、看護における少数者に関わる課題を持つ学生の課題研究指導を行う。 主な研究課題 (1) 看護における少数者に関する研究 (2) 院内教育に関する研究 (3) 教員の教授活動に関する研究 (4) 学生の学習活動に関する研究</p> <p>（服部美香） 看護教育学領域の課題を選択した学生のうち、看護継続教育、主に看護職者の問題解決、教授＝学習過程に関わる課題を持つ学生の課題研究指導を行う。 主な研究課題 (1) 看護職者の問題解決に関する研究 (2) 看護継続教育における教授活動に関する研究 (3) 看護継続教育における学習活動に関する研究</p>			
学科目的	課題の焦点化、データの収集・分析、論文作成、発表、評価に至る一連の研究過程を経験する。			
学科目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 焦点化した課題の背景を述べる。 2. 課題研究の目的・目標に合致した研究方法を設定する。 3. 文献検討の結果に基づき、精度の高い研究計画書を作成する。 4. 既存の研究方法論を正確に適用し、データを収集・分析する。 5. 倫理的配慮に基づきデータを収集・分析する。 6. 構成要素に沿って研究論文を作成する。 7. 課題研究の概要を簡潔に説明する。 8. 看護専門職に必要な研究的態度を述べる。 9. 看護学研究の成果を産出・累積する意義を述べる。 			

授業の内容と方法	15回 / 2年のゼミ形式の授業を基本に論文指導を行う。				
	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習(学習課題)	担当
	1	【1年次前期】 関連文献の精読を通して自己の興味・関心を焦点化し、課題を決定する。	ゼミ	課題の明確化	研究指導教員 及び研究指導 補助教員
	2		ゼミ	文献検討	
	3	【1年次後期】 課題、研究方法に関わる文献検討の結果に基づき、研究計画書を完成させる。 研究科委員会が指名する主査1名、副査2名による研究計画書の審査を受ける。 人を対象とする研究の場合は、倫理委員会に研究計画書を提出し、承認を得る。 倫理委員会の承認後、研究計画書に基づきデータを収集する。	ゼミ	文献検討	
	4		ゼミ	研究計画書の作成	
	5		ゼミ	研究計画書の作成	
	6		ゼミ	研究計画書審査書類作成	
	7		ゼミ	倫理審査書類作成	
	8		ゼミ	データ収集	
	9		ゼミ	データ収集	
	10	【2年次前期】 研究計画書に基づき、データを収集・分析する。 データ収集・分析の適切性を評価する。 結果及び考察の論述を行う。	ゼミ	データ分析	
	11		ゼミ	データ分析	
	12		ゼミ	研究結果の論述	
	13		ゼミ	考察の論述	
14	ゼミ		審査準備		
15	【2年次後期】 研究指導教員の承認を得て、所定の書類とともに特定の課題についての研究の成果及び論文要旨を研究科長に提出する。 研究科委員会が指名する主査1名、副査2名による特定の課題についての研究の成果の審査及び口頭試問を受ける。 最終試験として論文発表会の発表及び質疑応答に必要な準備を行う。 規定時間内に論文発表及び質疑応答を行う。	ゼミ	発表準備		
評価方法	研究計画書審査，特定の課題についての研究の成果の審査，論文発表及び質疑応答				
参考書 参考文献等					
学習相談 助言体制	<ul style="list-style-type: none"> 研究指導教員及び研究指導補助教員は、ゼミ形式の授業を基本に論文指導を行う、学生の必要に応じて個別指導を行う。 研究指導教員は、必要性に応じて、課題に関連する分野の専門家より、課題研究の遂行に向けた助言を受けられるよう支援する。 				
備考	<p>【14条適用の学生が職場においてデータを収集する場合の倫理的配慮】</p> <ol style="list-style-type: none"> 職場である保健医療機関、教育機関の責任者よりデータ収集許可文書を得る。 1の文書を含め、倫理委員会に必要書類を提出し、研究計画遂行の承認を得る。 				

科目区分	講習会修了要件充足科目		聴講	不可	
授業科目名	情報と教育		科目履修	不可	
科目番号	MN01001	クラス番号	MN1		
授業形式	講義・演習	必修選択区分	自由		
開講時期	1年次・前期	単位	2単位 30時間		
科目責任者	狩野太郎	その他			
担当教員	狩野太郎, 星野修平				
授業の概要	<p>本研究科は、高等教育としての看護学教育の特徴と課題に精通し、研究成果の教材化・授業計画案作成・教授方略等の授業展開に必要な知識・技術、その基盤となる看護教育評価・看護学教育カリキュラム編成の知識・技術、教育倫理に関する知識・技術を駆使し、質の高い教育を展開できる人材育成に必要な科目として、情報と教育を提供する。学生は、この科目を通し、教育への情報メディアの活用と情報の効率的操作（情報活用能力：メディアリテラシー）に必要な知識・技術を修得する。具体的には、情報処理の基本を学習し、基本的なソフトウェア活用の演習を通して、情報処理の原理・原則を理解するとともに、有効かつ適切な活用に必要な知識・技術を獲得する。また、学生の発表内容から自己の課題を検討し、補完すべき知識・技術を明確にする。</p>				
目的	<p>目的：情報と意思決定の関係とメディアリテラシーの重要性の理解に基づき、情報を活用した看護学教育に必要な基礎的知識と技術を獲得する。</p> <p>目標：1. 様々な情報メディアを用いて看護学教育に必要な情報を収集、分析する。 2. マルチメディアによる情報表現の手法を説明する。 3. 情報表現における倫理的行動を説明する。 4. 情報を活用した看護学教育を実践する意義を述べる。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	情報科学とは（E-mail、学術情報システム説明含む）	講義 演習	必要に応じて 学習課題を提示	星野
	2	ワープロソフトの基本			
	3	文献検索の方法(1)		プリントによる 学習課題を提示	狩野
	4	文献検索の方法(2)			
	5	インターネットと World Wide Web		必要に応じて 学習課題を提示	星野
	6	電子メールによるコミュニケーション			
	7	著作権と情報モラル			
	8	医療における応用		プリントによる 学習課題を提示	狩野
	9	表計算ソフトの基本			
	10	表計算ソフトによるデータ解析(1)			
	11	表計算ソフトによるデータ解析(2)			
	12	表計算ソフトによるデータ解析(3)			
	13	表計算ソフトによるデータ解析(4)			
	14	パワーポイントによるプレゼンテーション(1)			
	15	パワーポイントによるプレゼンテーション(2)			
自己学修時間	15時間				
評価方法	討議況（50%）、学習課題の実施状況（50%）				
参考書 参考文献等	講義中に適宜紹介				
オフィスアワー	月曜日 / 17時から 18時 / 研究室	連絡先	tarok@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備考	専任教員養成講習会受講修了認定を希望する学生は必ず履修すること。				

科目区分	講習会修了要件充足科目		聴講	不可	
授業科目名	教育の原理と環境		科目履修	不可	
科目番号	MN01002	クラス番号	MN1		
授業形式	講義・演習	必修選択区分	自由		
開講時期	1年次・前期	単位	2単位 30時間		
科目責任者	清水和夫	その他			
担当教員	清水和夫、高橋 望				
授業の概要	<p>本研究科は、高等教育としての看護学教育の特徴と課題に精通し、研究成果の教材化・授業計画案作成・教授方略等の授業展開に必要な知識・技術、その基盤となる看護教育評価・看護学教育カリキュラム編成の知識・技術、教育倫理に関する知識・技術を駆使し、質の高い教育を展開できる人材育成に必要な科目として、情報と教育を提供する。学生は、この科目を通し、教育の目的や役割を理解する上で必要不可欠な教育に関連する法律への理解を深める。また、我が国の教育の現状と課題を踏まえ、教育の機能と教員の法的責任について理解を深める。具体的には、学生は、教育の機能、教育の制度、教育の現状と課題など、教育学の基礎知識を学習し、教育・学習の機会の保障に向けて、現代社会の教育環境に関する諸問題とその解決策を検討する。</p>				
目的 目 標	<p>目的：教育学の基礎的・基本的内容について学び、学習の意義とその多様なあり方を理解するとともに、わが国の教育の現状と問題の解決に向けた課題を検討する。</p> <p>目標：1.教育の機能、目的、方法を説明する。 2.学校、教育課程、教員等に関する諸制度の概要を説明する。 3.わが国の教育の現状と諸問題を説明する。 4.わが国の教育上の問題、教育環境改善のための課題を明確にする。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	教育の機能と目的	講義 演習	必要に応じて 学習課題を提示	清水
	2	教育法とは何か・・・教育六法の活用			
	3	教育法制理解と現代の教育問題の考察			
	4	アンケート調査に基づく教育問題の検討			
	5	アンケート調査に基づく教育問題の検討			
	6	様々な教育課題の検討			
	7	わが国の今後の教育のあり方			
	8	教育の領域・場所・目的	講義 演習	必要に応じて 学習課題を提示	高橋
	9	教育政策			
	10	教育の制度・経営			
	11	教員の勤務と文化			
	12	学校組織・学校文化			
	13	教育環境の分析			
	14	教育環境改善のための手だての検討			
	15	教育環境改善のための手だての検討			
<p>終了後レポートの課題『教育の原理と環境の授業を通して学んだこと』 15回の授業を通して得た知識に基づき、わが国の教育上の問題、教育環境改善のための課題を述べる。</p>					
自己学修時間	15時間				
評価方法	討議（20％）、グループワークの参加状況（20％）終了後レポート（60％）				
参考書 参考文献等	・喜多明人他：解説教育六法 2017，三省堂，2017				
オフィスアワー	連絡先				
履修要件	特になし				
備考	専任教員養成講習会受講修了認定を希望する学生は必ず履修すること。				

科目区分	講習会修了要件充足科目		聴講	不可	
授業科目名	看護の本質と専門性		科目履修	不可	
科目番号	MN01003	クラス番号	MN1		
授業形式	講義・演習	必修選択区分	自由		
開講時期	1年次・前期	単位	2単位 60時間		
科目責任者	山下暢子	その他			
担当教員	山下暢子 高橋裕子				
授業の概要	<p>本研究科は、科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けた看護学とその教育の充実・発展・革新に意義を見出すことのできる人材育成に必要な科目として、看護の本質と専門性を提供する。科学的根拠に基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）の実現に向けては、科学的根拠に基づく看護学教育（EBNE：Evidence-Based Nursing Education）が必要不可欠である。学生は、この科目を通して、EBNEを展開するために必要な普遍的要素として、看護・看護職の歴史的発展及び看護理論を理解するとともに、これらを前提に、看護の役割と機能を理解する。具体的には、看護の起源と機能の変遷を学習し、看護学の基礎概念である看護・人間・健康・環境について探究する。また、看護学教育を実践するためのカリキュラム編成の骨格となる理論的枠組みを構成する重要性を理解する。</p>				
目的	<p>目的：看護・看護職の歴史的発展・看護理論の学習を通して、看護の本質と専門性に関わる知識を修得するとともに、カリキュラム編成の基盤となる看護学の基礎概念を明確にする。</p> <p>目標：1.看護・看護職の起源と機能の変遷に基づき、看護の役割と機能を説明する。 2.看護学およびその実践の基礎となる主な理論の概要を説明する。 3.看護学教育を実践する上で看護・看護職の歴史的発展及び看護理論を学習する意義を見出す 4.1.2に基づき、看護学の基本概念である看護、人間、健康、環境を規定する。 5.カリキュラム編成における概念規定の意義を見いだす。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
	1	看護の起源と機能の変遷 - 太古の昔からある看護の機能 看護職の起源と機能の変遷 - 看護の機能分化による看護職者の成立	講義 演習	課題図書の該当箇所の精読 必要に応じて学習課題を提示	高橋
	2	看護の起源と機能の変遷 - 太古の昔からある看護の機能 看護職の起源と役割・機能の変遷 - 看護の機能分化による看護職の成立			
	3	看護の役割と機能（成果発表と討議）			
	4	看護理論概説	講義 演習	課題図書の該当箇所の精読 必要に応じて学習課題を提示	山下
	5				
	6	ナイチンゲール「看護覚え書き」			
	7				
	8	ヘンダーソン「看護の基本となるもの」			
	9				
	10	キング「キング看護理論」			
	11				
	12	看護理論演習	演習	毎回、学習課題の提示	高橋
	13				
	14				
	15	成果発表と討議			
	16	カリキュラム編成における概念規定	講義	必要に応じて	高橋

	17	「看護」の概念規定	演習	学習課題を提示
	18			
	19			
	20	「人間」の概念規定		
	21			
	22			
	23	「環境」の概念規定		
	24			
	25			
	26	「健康」の概念規定		
	27			
	28			
	29	「看護」「人間」「環境」「健康」の概念規定の成果発表と討議		講義
30	カリキュラム編成における概念規定の意義			
<p>終了後レポートの課題『看護の本質と専門性の授業を通して学んだこと』 30回の授業を通して得た知識に基づき、看護学教育を实践する上で看護・看護職の歴史的発展及び看護理論を学習する意義とカリキュラム編成における概念規定の意義を述べる。</p>				
自己学修時間	30時間			
評価方法	グループワークの参加状況（30％） 成果発表（20％） 討議（10％） 課題レポート（40％）			
参考書 参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・フローレンス・ナイチンゲール著 薄井担子他訳：看護覚え書き，現代社，2000． ・ヴァージニア・ヘンダーソン著 湯槇ます他訳：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会，2006． ・アイモジン・M.キング著 杉森みど里訳：キング看護論，医学書院，1985． ・日本看護協会編：新版 看護者の基本的責務 - 定義・概念 / 基本法 / 倫理，日本看護協会出版会，2016． ・ジョセフィン A.ドラン著 小野泰博他訳：看護・医療の歴史，誠信書房，1978． ・杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学 第5版増補版，医学書院，2014． ・M.メイヤロフ(田村真、向野宣之訳)：ケアの本質，ゆみる出版，1971． ・P.ベナー，M.サットンフェン，V.レオナード，R.デイ（早野 ZITO 真佐子）：ベナー ナースを育てる：医学書院，2011． 			
オフィスアワー	火曜日 / 17時から 18時 / 研究室	連絡先	yamashita@gchs.ac.jp	
履修要件	特になし			
備考	専任教員養成講習会受講修了認定を希望する学生は必ず履修すること。			

科目区分	講習会修了要件充足科目		聴講	不可		
授業科目名	看護学教育課程論（カリキュラム編成の基礎）		科目履修	不可		
科目番号	MN01004	クラス番号	MN1			
授業形式	講義・演習	必修選択区分	自由			
開講時期	1年次・前期	単位	2単位 30時間			
科目責任者	山下暢子	その他				
担当教員	山下暢子，高橋裕子，河内直美，町田理恵					
授業の概要	<p>本研究科は、高等教育としての看護学教育の特徴と課題に精通し、研究成果の教材化・授業計画案作成・教授方略等の授業展開に必要な知識・技術、その基盤となる看護教育評価・看護学教育カリキュラム編成の知識・技術、教育倫理に関する知識・技術を駆使し、質の高い教育を展開することのできる人材育成に必要な科目として、看護学教育課程論（カリキュラム編成の基礎）を提供する。学生は、この科目を通し、EBNE 展開の基礎となるカリキュラム編成の基礎知識を修得する。具体的には、看護学教育カリキュラム編成の理論に基づき、看護教育カリキュラムの作成過程と看護専門学校の統合カリキュラムの実際を関連づける。また、それを通して、看護学教育カリキュラムの編成に必要な知識を学習する意義を見いだす。</p>					
目的	<p>目的：看護学教育カリキュラムの編成に必要な基礎知識を理解するとともに、これを学習する意義を見いだす。</p> <p>目標：1.看護教育カリキュラムの作成過程を説明する。 2.特定の看護専門学校のカリキュラムの実際とカリキュラム編成の理論の関係性を説明する。 3.統合カリキュラム編成に必要な知識を学習する意義を認める。</p>					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当	
	1	カリキュラムとは	講義	課題図書「看護教育カリキュラム - その作成過程 -」の第1章～第5章の精読	山下	
	2	看護教育カリキュラムの作成過程（1）	講義 演習		高橋	
	3	看護教育カリキュラムの作成過程（2）				
	4	看護教育カリキュラムの作成過程（3）				
	5	看護教育カリキュラムの作成過程（4）				
	6	看護教育カリキュラムの作成過程（5）				
	7	統合カリキュラムの編成 方向付け段階	講義		町田	
	8	方向付け段階の実際（1）				
	9	方向付け段階の実際（2）				
	10	統合カリキュラムの編成 形成段階				高橋
	11	形成段階の実際（1）				
	12	形成段階の実際（2）				
	13	統合カリキュラムの編成 機能・評価段階				高橋
	14	機能・評価段階の実際				
15	大学等の自己点検・組織としての評価					
<p>終了後レポートの課題『看護学教育課程論を通して学んだこと』</p> <p>15回の授業を通して得た知識に基づき、統合カリキュラム編成に必要な知識を学習する意義を述べる。</p>						
自己学修時間	15時間					
評価方法	グループワークの参加状況（40%） 終了後レポート（60%）					
参考書 参考文献等	<p>・G.トレス他：看護教育カリキュラム - その作成過程 - ，医学書院，1988．</p> <p>・杉森みどり，舟島なをみ：看護教育学 第6版，医学書院，2016．（教科書）</p> <p>・看護行政研究会 編集：平成29年度版看護六法，新日本法規，2017．（参考書）</p>					
オフィスアワー	火曜日 / 17時から 18時 / 研究室	連絡先	yamashita@gchs.ac.jp			
履修要件	特になし					
備考	専任教員養成講習会受講修了認定を希望する学生は必ず履修すること。					

科目区分	講習会修了要件充足科目		聴講	不可	
授業科目名	看護学教育課程論（カリキュラム構造の理解）		科目履修	不可	
科目番号	MN01005	クラス番号	MN1		
授業形式	演習	必修選択区分	自由		
開講時期	1年次・前期	単位	2単位 30時間		
科目責任者	松田安弘	その他			
担当教員	松田安弘 高橋裕子				
授業の概要	本研究科は、高等教育としての看護学教育の特徴と課題に精通し、研究成果の教材化・授業計画案作成・教授方略等の授業展開に必要な知識・技術、その基盤となる看護教育評価・看護学教育カリキュラム編成の知識・技術、教育倫理に関する知識・技術を駆使し、質の高い教育を展開することのできる人材育成に必要な科目として、看護学教育課程論（カリキュラム構造の理解）を提供する。学生は、この科目を通し、看護学教育課程論（カリキュラム編成の基礎）の学習を前提に、看護専門学校のカリキュラムの現状を分析的に把握し、カリキュラムの構造を理解するとともに、カリキュラム編成上の課題とその克服方法を明確にする。具体的には、学生は、所属する看護専門学校のカリキュラムの分析を通して、その構造と課題を明確にする。また、学校の理念や教育目標等と科目の一貫性を確保する意義を見いだす。				
目的 的 標	目的：看護専門学校のカリキュラムの現状分析を通して、カリキュラムの構造を理解とカリキュラム編成において直面しやすい問題を明確にする。 目標：1. カリキュラム編成の知識に基づき、所属する看護専門学校のカリキュラムを分析する。 2. 1に基づき、カリキュラム編成上の課題とその克服方法を説明する。 3. 学校の理念や教育目標等と科目の一貫性を確保する意義を見いだす。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当
	1	看護専門学校のカリキュラムの把握（1）：基礎分野	演習	課題図書（第6章）の精読 必要に応じて学習課題を提示	松田 高橋
	2	カリキュラムの現状分析と課題の明確化（1）：基礎分野			
	3	看護専門学校のカリキュラムの把握（2）：専門基礎分野			
	4	カリキュラムの現状分析と課題の明確化（2）：専門基礎分野			
	5	看護専門学校のカリキュラムの把握（3）：専門分野			
	6	看護専門学校のカリキュラムの把握（3）：専門分野			
	7	カリキュラムの現状分析（3）：専門分野			
	8	カリキュラムの現状分析（3）：専門分野			
	9	カリキュラムの課題の明確化（3）：専門分野			
	10	カリキュラムの課題の明確化（3）：専門分野			
	11	看護専門学校のカリキュラムの把握（4）：統合分野			
	12	看護専門学校のカリキュラムの把握（4）：統合分野			
	13	カリキュラムの現状分析（3）：統合分野			
	14	カリキュラムの課題の明確化（3）：統合分野			
	15	成果発表と討議			
自己学修時間	15時間				
評価方法	グループワークの参加状況（50％） 成果発表（30％） 討議（20％）				
参考書 参考文献等	・G.トレス他：看護教育カリキュラム - その作成過程 - ，医学書院，1988． ・杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学 第6版，医学書院，2016． ・看護行政研究会 編集：平成29年度版看護六法，新日本法規，2017．				
オフィスアワー	木曜日 / 18時から19時 / 研究室	連絡先	matuda@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備考	専任教員養成講習会受講修了認定を希望する学生は必ず履修すること。				

科目区分	講習会修了要件充足科目		聴講	不可
授業科目名	看護学教育課程演習		科目履修	不可
科目番号	MN01006	クラス番号	MN1	
授業形式	講義・演習	必修選択区分	自由	
開講時期	1年次・通年	単位	4単位 120時間	
科目責任者	松田安弘	その他		
担当教員	松田安弘 高橋裕子			
授業の概要	<p>本研究科は、高等教育としての看護学教育の特徴と課題に精通し、研究成果の教材化・授業計画案作成・教授方略等の授業展開に必要な知識・技術、その基盤となる看護教育評価・看護学教育カリキュラム編成の知識・技術、教育倫理に関する知識・技術を駆使し、質の高い教育を展開することのできる人材育成に必要な科目として、看護学教育課程演習を提供する。学生は、看護学教育課程論（カリキュラム編成の基礎）と看護学教育課程論（カリキュラム構造の理解）の既習内容を前提として、保健師助産師看護師学校養成所指定規則との整合性を保ち、かつ、学校の教育理念・教育目的等から各科目の授業設計まで一貫して統合カリキュラムを編成する能力を修得する。具体的には、実際に仮定の看護専門学校設置計画の作成、統合カリキュラム編成を体験する。また、その過程を通し、獲得した知識を統合するとともに、獲得した知識の活用可能性とカリキュラム編成における自己の課題を検討する。</p>			
目的 的標	<p>目的：カリキュラム編成に必要な知識を活用し、統合カリキュラム編成を実践的に展開する。また、看護専門学校のカリキュラム編成に向けた今後の自己の課題を検討する。 目標：1. 看護学教育課程論 の学習成果を活用し、仮定の看護専門学校の統合カリキュラムを編成する。 2. 1を通して、統合カリキュラム編成の意義と今後の自己の課題を見いだす。</p>			
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)
	1	仮定の看護専門学校設置の必要性検討	演習	必要に応じて 学習課題を提 示
	2	カリキュラム編成：方向付け段階(1)：		
	3	教育理念、教育目標、主要概念、卒業生の		
	4	特性の明確化		
	5	カリキュラム編成：方向付け段階(2)：		
	6	教育理念、教育目標、卒業生の特性の成文化		
	7			
	8	カリキュラム編成：方向付け段階(3)：		
	9	内容の諸要素の抽出		
	10			
	11	カリキュラム編成：方向付け段階(4)：		
	12	カリキュラム軸の抽出・理論的枠組みの作成		
	13			
	14	成果発表と討議		
	15	カリキュラム編成：形成段階(1)：		
	16	カリキュラムデザインの決定		
	17	カリキュラム編成：形成段階(2)：		
	18	レベル目標の設定		
	19			
	20	カリキュラム編成：形成段階(3)：		
	21	学科目標の設定		
	22			
	23	カリキュラム編成：機能段階(1)：		
	24	授業設計 テーマの決定		
				担当 松田 高橋

	25	カリキュラム編成：機能段階(2)：		
	26	授業設計 目標の分析		
	27	カリキュラム編成：機能段階(3)：		
	28	授業設計 シラバスの作成		
	29	成果発表と討議		
	30	仮定の看護師養成教育機関の必要性の再検討		
	31	カリキュラム編成：形成段階(4)：		
	32	レベル目標の設定		
	33			
	34			
	35			
	36			
	37			
	38			
	39	カリキュラム編成：形成段階(5)：		
	40	学科目標の設定		
	41			
	42			
	43			
	44			
	45			
	46			
	47	カリキュラム編成：形成段階(5)：		
	48	内容の配置図作成		
	49			
	50			
	51			
	52			
	53			
	54			
	55	カリキュラム編成：形成段階(5)		
	56	学科目一覧表、カリキュラム構造図作成		
	57			
	58			
	59			
	60	成果発表と討議		
自己学修時間	60 時間			
評価方法	グループワークの参加状況（50％） 成果発表（30％） 討議（20％）			
参考書 参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・G.トレス他：看護教育カリキュラム - その作成過程 - ，医学書院，1988 . ・杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学 第6版，医学書院，2016 . ・看護行政研究会 編集：平成 29 年度版看護六法，新日本法規，2017. 			
オフィスアワー	木曜日 / 18 時から 19 時 / 研究室	連絡先	matuda@gchs.ac.jp	
履修要件	特になし			
備考	専任教員養成講習会受講修了認定を希望する学生は必ず履修すること。			

科目区分	講習会修了要件充足科目		聴講	不可
授業科目名	看護学教育評価演習		科目履修	不可
科目番号	MN01007	クラス番号	MN1	
授業形式	講義・演習	必修選択区分	自由	
開講時期	1年次・通年	単位	2単位 60時間	
科目責任者	服部美香	その他		
担当教員	服部美香 高橋望			
授業の概要	<p>本研究科は、高等教育としての看護学教育の特徴と課題に精通し、研究成果の教材化・授業計画案作成・教授方略等の授業展開に必要な知識・技術、その基盤となる看護教育評価・看護学教育カリキュラム編成の知識・技術、教育倫理に関する知識・技術を駆使し、質の高い教育を展開することのできる人材育成に必要な科目として、看護学教育評価演習を提供する。学生は、教育評価の機能及び形態を学習し、看護学教育を行う上で必要な教育評価の知識を修得する。具体的には、教育評価の基礎的知識を前提とし、評価に用いる測定用具、教授活動・学習活動の評価、教育の自己点検・評価に必要な知識を修得する。また、総括的評価に用いる試験問題等の作成を通して、学習した教育評価に関する知識を適用する。</p>			
目的 目 標	<p>目的：教育評価の基礎的知識を前提とし、評価に用いる測定用具、教授活動・学習活動の評価、教育の自己点検・評価等、看護学教育を行う上で必要な教育評価の知識を修得する。</p> <p>目標：1. 目的や対象に応じた評価方法と測定用具を使用した評価方法を説明する。 2. 教授活動・学習活動の評価の方法と意義を説明する。 3. 教育評価の知識に基づき、総括的評価に用いる測定用具（試験問題）を作成する。 4. 大学および専修学校の自己点検・評価について説明する。 5. 看護学教育に必要な教育評価の知識・技術・態度を修得する意義を述べる。</p>			
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題） 担当
	1	導入：教育評価の意義と機能	講義	必要に応じて学習課題を提示
	2	教育評価の原則		
	3	教育評価の方法		
	4	学習理論と評価		
	5	実習と教育評価		
	6	教育評価の事例から考える		
	7	教育評価の事例から考える		
	8	教育評価の事例から考える		
	9	看護学教育評価の特徴と方法	演習	文献A)1-9頁、25-40頁を精読する
	10	評価に用いる測定用具の要件		
	11	教育活動の評価		
	12	授業過程の評価とその実際		
	13	授業過程の評価とその実際		
	14			
	15	学習活動の評価1		
	16	教育目標分類学に基づく目標設定		
	17	学習活動の評価2 形成的評価に用いる方法		
	18	学習活動の評価3		
	19	総括的評価に用いる方法とその実際		
	20			
	21	総括的評価に用いる方法とその実際		
	22			
	23			

	24	総括的評価に用いる方法とその実際			
	25				
	26				
	27				
	28				
	29				
	30	大学および専修学校の自己点検・評価	講義		服部
<p>終了後レポートの課題『看護学教育評価演習を通して学んだこと』 30回の授業を通して得た知識に基づき、看護学教育に必要な教育評価の知識・技術・態度を修得する意義を述べる。</p>					
自己学修時間	30 時間				
評価方法	グループワークの参加状況（40％）、課題レポート（60％）				
参考書 参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・文献A) 舟島なをみ監訳：看護学教育における講義・演習・実習の評価，医学書院，2009． ・文献B) 舟島なをみ監修：看護学教育における授業展開，医学書院，2014． ・杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学 第6版，医学書院，2016． ・梶田叡一：教育評価 第2版補訂2版，有斐閣，2010． ・橋本重治：2003年度改訂版 教育評価法概説，(財)応用教育研究所，2003． 				
オフィスアワー	火曜日 / 17時から 18時 / 研究室	連絡先	hattori@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備考	専任教員養成講習会受講修了認定を希望する学生は必ず履修すること。				

科目区分	講習会修了要件充足科目		聴講	不可					
授業科目名	教育への研究成果活用		科目履修	不可					
科目番号	MN01008	クラス番号	MN1						
授業形式	講義・演習	必修選択区分	自由						
開講時期	1年次・後期	単位	2単位 30時間						
科目責任者	横山京子	その他							
担当教員	横山京子、大澤真奈美、飯田苗恵、高橋裕子								
授業の概要	<p>本研究科は、高等教育としての看護学教育の特徴と課題に精通し、研究成果の教材化・授業計画案作成・教授方略等の授業展開に必要な知識・技術、その基盤となる看護教育評価・看護学教育カリキュラム編成の知識・技術、教育倫理に関する知識・技術を駆使し、質の高い教育を展開することのできる人材育成に必要な科目として、教育への研究成果活用を提供する。学生は、この科目を通し、EBNE 展開の基礎となる看護学研究の理解、研究過程と研究論文の理解など、研究指導と研究成果活用に必要な基礎知識に基づき、研究成果を活用した教育上の問題の解決過程を展開する。具体的には、看護学教育における研究の特徴、研究指導方法および研究成果活用に必要な基礎知識を学習するとともに、看護学教育における実践上の問題解決に向けて看護学研究を検索し、成果を活用するための方法を学習する。また、これを前提として、看護学教育の学習を通して日々感じている問題を明らかにする。さらに、焦点化したテーマ（問題）に関連する文献の検索と検討を通して学術的に問題を解決する過程を体験する。</p>								
目的	<p>目的：看護学教育における研究の特徴、研究指導方法や研究成果活用に必要な基礎知識を理解する。また、看護学教育における実践上の問題解決に向けて看護学の研究成果を活用する過程を展開し、その意義を認める。</p>								
目標	<p>目標：1. 看護学研究に用いられる基本的な用語を説明する。 2. 研究過程と研究デザインを説明する。 3. 看護基礎教育における研究指導の方法を説明する。 4. 問題解決に向けて、看護学研究を検索し、成果を活用するための方法を説明する。 5. 看護学教育の学習を通して感じている問題からテーマを焦点化し、看護学研究の成果を活用した問題解決過程を実施する。 6. 看護学研究の意義と成果を活用した問題解決過程の意義を認める。 7. 看護学研究の成果を教授活動に活用するための課題を考察する。</p>								
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）	担当				
	1	看護学研究の意義と特徴	講義	『看護における研究』第1章を精読する	横山				
	2	研究過程と研究論文の構成要素	講義 演習			大澤			
	3	探究レベルと研究の特徴（因子探索研究）							
	4	探究レベルと研究の特徴（関係探索研究）							
	5	探究レベルと研究の特徴（関連検証研究）							
	6	探究レベルと研究の特徴（因果仮説検証研究）	講義			飯田			
	7	データ収集と分析（1）							
	8	データ収集と分析（2）							
	9	看護基礎教育における研究の可能性							
	10	研究指導の方法（1）					演習		横山 高橋
	11	研究指導の方法（2）							
	12	研究指導の方法（3）							
	13	研究指導の方法（4）							
	14	研究指導の方法（5）							
	15	研究指導の方法（6）							
	16	研究成果活用の意義と実際 - 看護学教育と研究成果	講義		看護学教育の学習を通して	横山			

		- 研究成果活用の過程 - 研究成果活用による看護教育実践上の問題解決		感じている問題を指定用紙に記載し提出する。	
	17	研究成果活用のための文献検索 - 研究成果を入手する方法 - 文献検索の意義と目的	講義	『看護における研究』第3章を精読する。演習と平行し、グループ討議に向け、各自文献を精読・要約し、文献カードに整理する。	横山 高橋
	18	問題解決過程の展開	演習		
	19	グループにおける問題の共通性による問題			
	20	解決に向けたテーマの焦点化・成文化（グループ討議）			
	21	問題解決に向けた文献検索の実際と文献入手			
	22	文献精読による内容の理解、文献整理			
	23	問題解決に向けた文献の選択			
	24	選択した看護学研究の共通点・相違点の明確化			
	25	学習成果発表に向けた内容の整理			
	26	成果発表			
	27	成果発表			
	28	成果発表			
	29	成果発表			
	30	成果発表			
	<p>終了後レポートの課題『教育への研究成果活用の授業を通して学んだこと』 30回の授業を通して得た知識に基づき、看護学研究の意義と成果を活用した問題解決過程の意義と看護学研究の成果を教授活動に活用するための課題を述べる。</p>				
自己学修時間	15 時間				
評価方法	グループワークの参加状況(30%)、成果発表(30%)、討議(10%)、課題レポート(30%)				
参考書 参考文献等	・南裕子編：看護における研究，日本看護協会出版会，2008. ・山崎茂明他：看護研究のための文献検索ガイド 第4版増補版，日本看護協会出版会，2010.				
オフィスアワー	月曜日 / 17時から18時 / 研究室	連絡先	k.yokoyama@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備考	専任教員養成講習会受講修了認定を希望する学生は必ず履修すること。				

科目区分	講習会修了要件充足科目		聴講	不可	
授業科目名	教育組織運営への参画		科目履修	不可	
科目番号	MN01009	クラス番号	MN1		
授業形式	講義・演習	必修選択区分	自由		
開講時期	1年次・後期	単位	1単位 15時間		
科目責任者	巴山玉蓮	その他			
担当教員	巴山玉蓮 茂木佐智子				
授業の概要	本研究科は、成人学習者としての看護職者・看護学教員の特性を理解し、スタッフ・ディベロップメント（SD）、ファカルティ・ディベロップメント（FD）を支援できる人材育成に必要な科目として、教育組織運営への参画を提供する。学生は、この科目を通し、看護学教育の提供に必要な教育組織の構成と機能に関する基礎的知識を修得する。また、これを前提に、教員組織、管理運営、自己点検・評価の視点から教育組織運営に参画する教員として必要な自己の課題を見いだす。具体的には、看護学教育組織の組織と機能、組織運営の現状と課題について学習し、組織の教育的機能が発揮されるために学生がこれまで実施してきた活動を自己評価する。				
目的 目標	目的：看護学教育の目的を理解し、看護師養成教育機関の組織運営について理解する。 目標：1. 看護基礎教育課程における学生の受け入れ、教育施設・設備、教員組織など、看護学教育活動を推進するシステムを説明する。 2. 看護学教育組織運営の現状と課題を説明する。 3. 看護学教育組織の一員として、組織の教育的機能が発揮されるために必要な自己の課題を見出す。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	看護学教育組織運営論とは	講義	必要に応じて 学習課題を提 示	茂木
	2	看護学教育組織運営に関わる法規			
	3	看護学教育組織の構成と機能	講義		巴山
	4	組織運営の現状と課題 1	演習		
	5	組織運営の現状と課題 2			
	6	組織運営の現状と課題 3			
	7	組織運営の現状と課題 4	講義		
	8	看護学教育組織運営の評価			
終了後レポートの課題『教育組織運営への参画の授業を通して学んだこと』 8回の授業を通して得た知識に基づき、看護学教育組織の一員として、組織の教育的機能が発揮されるために必要な自己の課題を述べる。					
自己学修時間	15時間				
評価方法	グループワークの参加状況（50％） 課題レポート（50％）				
参考書 参考文献等	・杉森みど里，舟島なをみ：看護教育学 第6版，医学書院 ・看護教育問題研究会監修：看護教育自己評価指針 看護教育必携資料集， メジカルフレンド社，2009． ・看護行政研究会 編集：平成29年度版看護六法，新日本法規，2017				
オフィスアワー	月曜日 / 17時から 18時 / 研究室	連絡先	tomoyama@gchs.ac.jp		
履修要件	特になし				
備考	専任教員養成講習会受講修了認定を希望する学生は必ず履修すること。				